

第二十八條 會計主務官ハ其調定シタル支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ毎月支出報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ但作業支部局ノ會計主務官ハ其支出報告書ヲ翌月七日マテニ作業事務本局ノ會計主務官ニ送付スヘシ

第二十九條 作業事務本局ノ會計主務官ハ作業全部ノ支出合計表ヲ調製シ諸會計主務官ノ支出報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 資本

第三十條 資本ハ總テ價格ヲ付シテ計算スヘシ

第三十一條 資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム

- 一 土地ハ近隣地ノ賣買價格五箇年間ノ平均ニ依ル近隣ニ比較スヘキ相當ノ土地ナキトキハ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ

平均ニ依ル

- 二 建物鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ建築費又ハ購入價格ニ依ル建築費又ハ購入價格ノ不明ナルモノハ物件ノ輕重ニ依リ二人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル

- 三 材料素品機械ノ運轉用品ハ購入價格ニ依ル

- 四 生産品ハ生産費ニ依ル但賣買ノ契約濟トナリタルモノハ其賣渡代價ニ依ル

第三十二條 土地ノ價格ハ前條ノ方法ニ依リ每五年ニ之ヲ改定スヘシ

第三十三條 公衆ノ用ニ供スル鐵道ノ固定資本ハ每五年ニ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依リ之ヲ改定スヘシ

第三十四條 建物公衆ノ用ニ供セサル鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ永遠保存品ヲ除キ總テ保存期限ヲ定メ其期限ニ應シテ毎年價格ヲ遞減スヘシ



前項中固定資本ニ屬スル物件ヲ修理シタルトキハ其修理費ヲ以テ現  
年ノ價格ニ加ヘ再ヒ保存年限ニ應シテ價格ヲ遞減スヘシ

第三十五條 前條ノ物件ヲ修理シタルトキハ保存年限ヲ改定シテ之ヲ  
延フルコトヲ得

第三十六條 材料素品機械ノ運轉用品ノ年度内未消費ニ屬スルモノ市  
價ノ低落又ハ毀損變質等ニ由リ其價格ヲ減スルトキハ毎年度ノ終リ  
當時ノ市價ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ

第三十七條 生産品ノ年度内未販賣ニ屬スルモノ需用ノ變動生産法ノ  
改良又ハ毀損變質等ニ由リ其價格ヲ減シ實際ノ市價生産費以下トナ  
ルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價又ハ當年度ノ生産費ニ依リ其價格  
ヲ改定スヘシ

第三十八條 材料素品機械ノ運轉用品生産品其他ノ物品ニシテ不用ニ  
歸シタルモノハ總テ損失トシ其價格ヲ削除シテ不用物品ニ組入レ之

ヲ賣拂フヘシ

第五章 受拂勘定

第三十九條 受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳入ノ收入濟額

第二 收入未濟額

第三 据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高

第四 總生産品ノ價格

第五 總材料及素品ノ價格

第六 總機械運轉用品ノ價格

第七 作業場用總備品ノ價格

第八 代價支出濟未收物品ノ價格

第四十條 拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳出ノ支出調定濟額



第二 支出未済額

第三 据置運轉資本額

第四 賣拂代價收入済物品ノ價格

第五 賣拂代價收入未済既出物品ノ價格

第六 消費シタル材料及素品ノ價格

第七 消費シタル機械運轉用品ノ價格

第八 損失ニ歸シタル物品ノ價格

第九 損失金

第四十一條 作業所ハ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ扣除シ殘餘アルト

キハ作業ノ益金トシテ其事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第六章 工事及物件ノ賣買貸借

第四十二條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ總テ會計規則第七

章ノ例ニ依ル

第七章 出納官吏

第四十三條 出納官吏ニ關スル規則ハ第四十四條ニ定メタル期限ノ外

總テ會計規則第八章ノ例ニ依ル

第四十四條 會計規則第九十五條ノ例ニ依リ會計主務官及收入官吏ノ

會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ所屬省又ハ事務管理廳ニ送付スル

ハ毎年度經過後二箇月以内トス

第八章 帳簿

第四十五條 大藏省ハ各作業會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額

收入済額收入未済額歳出ノ豫算額仕拂元受高確定額支出済額支出未

済額ヲ登記スヘシ

第四十六條 作業所ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ其事業ニ關スル一切ノ

計算ヲ登記スヘシ

第四十七條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入済額收



入未濟額ヲ登記スヘシ

第四十八條 會計主務官ハ支出簿調定總計簿ヲ備ヘ支出簿ニハ歲出ノ豫算額確定額支出調定濟額支出調定未濟額ヲ登記シ調定總計簿ニハ仕拂元受高支出調定濟額ヲ登記スヘシ

第四十九條 收入官吏現金前渡ヲ受タル官吏現金ヲ出納スル場合ニ於テハ現金出納簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

第九章 雜則

第五十條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第五十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

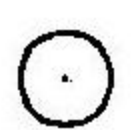
第五十二條 此規則ニ於テ作業所トハ造幣局、印刷局、富岡製絲所、電信燈臺用品製造所、廣島鑛山、東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠、千住製絨

所及鐵道ヲ謂フ

第五十三條 此規則ニ於テ作業事務長トハ鐵道局長官、造幣局長、印刷局事務長、富岡製絲所長、東京砲兵工廠提理、大阪砲兵工廠提理、千住製絨所ヲ謂フ

電信燈臺用品製造所及廣島鑛山ニ於テハ其事務管理長ヲ以テ作業事務長トス

第五十四條 本規則ハ明治二十三年度ヨリ執行ス



○整理公債ニ關スル特別會計 明治二十三年二月 法律第十四號

朕整理公債ニ關スル特別會計設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金ノ會計ハ特別トシテ



一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 整理公債募集金ノ毎年度内ニ他ノ公債償還ニ供セサルモノハ翌年度へ繰越スヘシ

第三條 整理公債條例第三十一條ニ依リ支出スル製造費發行費及利息ノ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ

第四條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○紙幣交換基金特別會計法 明治二十三年三月法律第二十四號

朕紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

紙幣交換基金特別會計法

第一條 從來政府ニ於テ發行シタル紙幣ヲ廢止スル爲メ紙幣交換基金ヲ置

キ漸次之ヲ交換セシム

第二條 政府所有ノ準備金壹千萬圓ハ之ヲ紙幣交換基金ニ組入ルヘシ

政府ハ金貳千貳百萬圓ヲ限リ日本銀行ヨリ借入ヲ爲シ前項ノ交換基金ニ組入ルヘシ (二十三年法律第五十六號ヲ以テ本項追加)

第三條 紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第四條 毎年度ニ於テ紙幣交換基金ノ交換未済トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度へ繰越スヘシ

第五條 紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法 明治二十三年三月法律第二十五號



朕鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法

第一條 國立銀行條例第九十八條ニ於テ定メタル鎖店銀行紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 毎年度ニ於テ鎖店銀行紙幣交換基金ノ交換未済トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ

第三條 鎖店銀行紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店

銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程 明治二十三年四月 勅令第六十八號

朕整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店

銀行紙幣交換基金特別會計ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程ハ左ニ掲クルモノ、外總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ

第一 大藏大臣ハ毎年公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歳入歳出豫定計算書ヲ調製シ歳入歳出總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第二 大藏大臣ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歳入歳出決定計算書ヲ調製シ歳入歳出總決算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第三 紙幣交換基金ハ仕拂命令ヲ發シテ現金ヲ日本銀行ニ前渡スルコトヲ得此場合ニ於ケル仕拂ノ證明ハ明治二十三年勅令第二十號ニ準據スヘシ



第四 毎年度ニ於テ仕拂命令ヲ發スルハ毎年三月三十一日ヲ限リトス

第五 會計主務官及收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第六 大藏省ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金會計ノ主計簿ヲ備フヘシ

○陸軍作業會計法 明治二十三年三月  
法律第十八號

朕陸軍作業會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍作業會計法

第一條 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠及千住製絨所ハ其事業ヲ經營スル爲メ

固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠ニ於テハ從來使用シ及將來増加スル所ノ機械其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス

千住製絨所ニ於テハ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地建物機械其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス

第三條 東京及大阪砲兵工廠ハ職工人夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費機械器具ノ維持修理及補充費工業場ノ雜費竝ニ損失金ヲ作業ノ歲出トス

千住製絨所ハ俸給諸給旅費廳費生産品販賣ノ諸費職工人夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費土地建物ノ維持修理費機械器具ノ維持修理及補充費工業場ノ雜費竝ニ損失金ヲ作業ノ歲出トス



第四條 各作業所特別會計ノ歲出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第五條 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歲入ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 豫算外ニ軍用品ノ製作修理ヲ要スル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ各作業所ノ歲出豫算ニ豫備費ヲ設ルコトヲ得

第八條 各作業所ニ於テ機械器具材料素品及機械運轉用品ヲ外國ヨリ買入ル、トキハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第九條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國

國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○海軍兵備品會計規則 明治二十三年三月 勅令第六十四號

朕海軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍兵備品會計規則

第一條 海軍兵備品トハ左ノ諸品ヲ云フ

- 一 兵器、彈藥、水雷及其附屬品
- 二 祕密圖書、測器海圖
- 三 艦營需品
- 四 被服、糧食
- 五 治療品



第二條 海軍兵備品ノ會計ハ本則ニ明文アルモノヲ除クノ外物品會計規則ニ依ル

第三條 鎮守府ニ在ル兵器、彈藥、水雷ノ保管出納ハ武庫主管ヲシテ掌理セシム

第四條 物品會計規則第十四條ニ依リ大藏大臣ニ送付スル報告書及同規則

第十五條第十七條ニ依リ會計検査院ニ送付スル計算書中兵器、彈藥、水雷及其附屬品竝祕密圖書、測器海圖ハ價格ノミヲ明記スヘシ

兵器、彈藥、水雷及其附屬品ノ數量ノ精確ハ檢閲官ノ證明書ヲ以テ保證シ祕密圖書、測器海圖ノ數量ノ精確ハ圖書、測器ヲ管理スル官吏ヲ統轄スル長官ノ證明書ヲ以テ保證スヘシ

第五條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○ 鎮守府造船材料資金會計法 明治二十三年三月  
法律第十九號

朕鎮守府造船材料資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府造船材料資金會計法

第一條 鎮守府造船工場ニ於テ船舶ヲ製造修理スル爲メニ要スル材料貯蓄ノ資本トシテ造船材料資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 造船材料資金ハ從來横須賀鎮守府小野濱造船所ニ備ヘタル營業資本ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ

第四條 造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ノ損減ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料原價ニ加算スヘシ

第五條 每會計年度ニ於テ造船材料資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩



ヲ生フルトキハ其過剩金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年造船材料資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 造船材料資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○鎮守府造船材料資金會計規則 明治二十三年三月 勅令第三十四號

朕鎮守府造船材料資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府造船材料資金會計規則

第一條 造船材料資金ハ貯蓄材料賣拂代金ヲ以テ歳入トシ材料購入代及損失金ヲ以テ歳出トス

第二條 造船材料資金ノ歳出ハ實際ノ歳入額及資金ニ屬スル現金ノ持

越高ナリテ支辨スヘシ

第三條 歳入歳出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル

第四條 收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル但作業事務長ノ職務ハ主計部長之ヲ行フヘシ

第五條 貯蓄材料ノ價格ハ總テ購入及改製代價ヲ以テ計算スヘシ

第六條 貯蓄材料ヲ工場ニ使用スルトキハ購入代價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ

第七條 貯蓄材料ノ損減歩合ハ毎年前々年度ノ損減高ニ基キ之ヲ定ム

第八條 歳出額收入未済額資金ニ屬スル現金ノ持越高及總材料ノ價格代價支出済未收物品ノ價格ヲ以テ受入トシ歳出額支出未済額資金額

賣拂代收入済材料ノ價格損失ニ歸シタル材料ノ價格及損失金ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ扣除シ過剩アルトキハ造船材料賣拂益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ



第九條 材料ノ買入不用材料賣拂ノ規程ハ總テ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十條 出納官吏ニ關スル規則ハ總テ作業及鐵道會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十一條 帳簿ニ關スル規則ハ總テ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル但作業所ハ主計部ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十三條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十四條 本規則ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○官立學校及圖書館會計法 明治二十三年三月法律第二十六號

朕官立學校及圖書館會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官立學校及圖書館會計法

第一條 文部省直轄學校及圖書館並農商務省所管東京農林學校ハ資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ生スル收入授業料寄付金及其他ノ收入ヲ以テ其歲出ニ充ツルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 學校及圖書館ノ資金ハ從來所有スル蓄積金政府ヨリ交付シ若クハ他ヨリ寄付シタル動産不動産及歲入殘餘ヨリ成ルモノトス

第三條 教員事務員ノ俸給諸給旅費器具器械圖書標本費授業費試驗費生徒ニ關スル諸費事務處費營繕費雜支出其他寄付者ノ指定シタル費途ヲ以テ學校及圖書館ノ歲出トス

第四條 學校及圖書館ノ寄付金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其約束



ニ從ヒ之ヲ使用シ其會計ハ別ニ之ヲ整理スヘシ

第五條 政府ハ毎年各學校及圖書館ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 學校及圖書館ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○官立學校及圖書館會計規則 明治二十三年三月 勅令第五十三號

朕官立學校及圖書館會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官立學校及圖書館會計規則

第一章 資金

第一條 資金ヲ分テ左ノ二種トス

第一 維持資金

第二 特別資金

維持資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ學校一般ノ經費ニ充ツルモノトス

特別資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其殘餘ハ該資金ノ増殖ニ充ツルモノトス

第二條 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ

第三條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但特別資金ニ限り用途指定者ノ同意ヲ以テ元金ヲ使用スルコトヲ得

第四條 資金ニ屬スル現金ハ總テ預金局ニ寄托スヘシ

第五條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産公債證書其他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘントスルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但寄付ニ係ル不動産ハ寄付者ノ承諾ヲ得ルニア



ラサレハ離權スルコトヲ得ス

第六條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歲入歲出トシテ之ヲ整理ス  
ヘシ

第二章 歲入歲出

第七條 左ノ諸收入ヲ以テ學校ノ經常歲入トス

第一 政府ノ支出金

第二 授業料及試験料

第三 寄付金

第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金

第五 土地家屋ノ貸付料

第六 實驗用生産品賣拂代

第七 雜收入

第八條 左ノ諸費ヲ以テ學校ノ經常歲出トス

第一 教員事務員ノ俸給諸給及旅費

第二 學術用器具器械圖書及標本費

第三 授業費及試験費

第四 獎學費

第五 生徒費

第六 事務所費

第七 營繕費

第八 雜支出

第九條 左ノ諸收入ヲ以テ圖書館ノ經常歲入トス

第一 政府ノ支出金

第二 書籍借覽料

第三 寄附金

第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金



第五 土地家屋ノ貸付料

第六 雜收入

第十條 左ノ諸費ヲ以テ圖書館ノ經常歲出トス

第一 事務員ノ俸給諸給及旅費

第二 圖書費

第三 閱覽室費

第四 事務所費

第五 營繕費

第六 雜支出

第十一條 經常歲入ハ經常歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ臨時ノ歲出ニ充ツル所ノ財源ハ其都度之ヲ定ム

第三章 豫算決算

第十二條 歲入歲出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度六月三十

日マテニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十三條 所管大臣ハ其年三月三十一日現在ノ資金明細目錄ヲ調製シ

毎年度ノ豫算ニ添付スヘシ

第十四條 歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三

十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十五條 歲入歲出ノ豫定計算書及決定計算書ハ款項ニ區分シ成ルヘ

ク歲入ノ性質歲出ノ用途ヲ明示スヘシ

第十六條 經費ノ所要ヲ明ニスル爲メ款項ノ金額ヲ細分シタル豫算明

細書及決算明細書ヲ調製シ豫定計算書又ハ決定計算書ニ添付スヘシ

第四章 收入支出

第十七條 歲入歲出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣學校長若クハ圖書館長

ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ

第十八條 學校及圖書館會計主任ノ官吏ハ收入官吏トシテ會計規則第



二十五條第二十六條第二十八條若クハ第二十九條ノ手續ニ依リ學校又ハ圖書館ノ收入ヲ取扱ヒ學校長又ハ圖書館長之ヲ監督スヘシ

第十九條 學校長又ハ圖書館長ハ經費ヲ支出スル爲メ仕拂命令官ノ責任ヲ以テ金庫ニ向ヒテ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第二十條 學校長又ハ圖書館長ハ正當債主若クハ其ノ代理人ノ爲メニスルニアラサレハ仕拂請求書ヲ發スルコトヲ得ス

在外國人又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買ヲ委托スル場合ニ於テハ其委托ヲシタル在外國人又ハ旅行者ヲ請取人トシテ仕拂請求書ヲ發シ概算ヲ以テ現金ヲ交付スルコトヲ得

學術試驗品標本品購入費獎學費生徒費事務所費ニ限り所管大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證金額ノ二倍ヲ極度トシ學校會計主任ノ官吏ニ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得

所管大臣ハ前項ニ依リ現金前渡ヲナスヘキ費目及金額ヲ定メタルト

キハ之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第二十一條 學校長又ハ圖書館長ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ニ違フコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤヲ調査スヘシ

第二十二條 學校長又ハ圖書館長ハ歳出豫算明細書ニ定メタル費目ノ彼是流用ヲ要スルトキハ所管大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 仕拂請求書ニハ受取人ノ氏名(概算渡現金前渡ノ場合ニハ受取人ノ資格トモ)仕拂ヲ要スル金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ但俸給生徒給與ニ限り集合仕拂請求書トシテ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ルコトヲ得

第二十四條 學校長又ハ圖書館長ノ發シタル仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條第三十八條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十五條 各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ翌年度四月



三十日ヲ限リトス

第二十六條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絶スルハ會計規則第四十三條第四十五條第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十八條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月支出調定濟報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 年度繰越歳入殘餘

第二十條 毎年度内ニ於テ仕拂フヘキ義務ヲ生シ債主ノ支出請求ナキ

カ若クハ事故アリテ翌年度四月三十日マテニ仕拂請求書ヲ發セサルモノ及仕拂請求書ヲ發シタルモ同日マテニ金庫ニ於テ仕拂請求ヲ受ケサルモノハ支出未濟又ハ仕拂未濟トシテ翌年度ニ繰越シ計算ヲナスヘシ

第三十一條 工事又ハ製造費ニシテ年度内ニ仕拂義務ヲ生セス仕拂請求書ヲ發スルニ至ラザリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第三十二條 所管大臣ハ學校又ハ圖書館ノ經費ヲ繰越サントスルトキハ年度經過後一箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り必要ノ参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第三十三條 大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三十四條 特ニ用途ヲ指定シタル寄付金ニシテ別途整理ヲ要スルモ



ノ、毎年度内ニ仕拂請求書ヲ發スルニ至ラサリシ殘額ハ總テ翌年度  
ヘ繰越シ使用スヘシ其仕拂請求書ヲ發シテ年度内ニ金庫ニ於テ仕拂  
ヲ終ラサリシモノハ第三十條仕拂未濟金整理ノ例ニ依ル但本條ノ支  
出殘額及仕拂未濟金ハ寄付者ノ同意ヲ得テ資金トナスコトヲ得

第二十五條 第三十條ニ依リ繰越シタル支出未濟及仕拂未濟ノ金額ニ  
シテ會計法第十八條ニ依リ期滿免除トナリタルモノハ總テ資金ニ組  
入ルヘシ

第二十六條 毎年度ノ歲入中仕拂濟額及繰越額ヲ扣除シタル殘餘ハ總  
テ資金ニ組入ルヘシ

第六章 工事及物件ノ賣買貸借

第三十七條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ會計規則第七章ノ  
例ニ依ル

第七章 出納官吏

第三十八條 出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章ノ例ニ依ル

第八章 帳簿

第三十九條 大藏省ハ各學校圖書館會計ノ主計簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額  
確定額收入濟額收入未濟額歲出ノ豫算額確定額支出濟額支出未濟額  
ヲ登記スヘシ

第四十條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額確定額收入濟額收入  
未濟額ヲ登記スヘシ

第四十一條 會計主務官ハ支出簿ヲ備ヘ歲出ノ豫算額確定額支出調定  
濟額支出調定未濟額ヲ登記スヘシ

第四十二條 會計主任ノ官吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ一切其取扱タル現金  
ノ出納ヲ登記スヘシ

第九章 雜則

第四十三條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證



明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十四條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第四十五條 所管大臣ハ部下ノ高等官ヲ以テ學校會計監理官トシ學校ノ會計ヲ監督セシムヘシ

第四十六條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス本規則ト牴觸スル命令ハ總テ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金郵便爲替金特別會計明治二十三年三月  
法律第二十一號

朕中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金郵便爲替金特別會計ヲ裁

可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 中央備荒儲蓄金ハ預金局ニ寄托シ其利子ハ之ヲ元金ニ編入スヘシ

第三條 備荒儲蓄法ニ依リ中央備荒儲蓄金ヲ使用セントスルトキハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第四條 預金局預金ハ日本銀行ヲシテ之レカ運用利殖ヲ取扱ハシメ其利殖金ヲ以テ利子ノ仕拂ニ充テ殘餘アルトキハ利子仕拂元金トシテ之ヲ積立預金ト共ニ運用利殖スヘシ

第五條 預金局預金ニ對シテ政府ヨリ仕拂フヘキ利子ハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第六條 郵便貯金預所貯金ハ預金局ニ寄托シ其利子ヲ貯金利子ノ仕拂ニ充ツヘシ



第七條 郵便爲替ヲ取扱フ爲メ特ニ爲替資本ヲ置キ從來ノ資本額ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第八條 郵便條例第四百十七條第三項ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル郵便爲替金ハ一般ノ歳入ニ組入ルヘシ

第九條 預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金ノ收入支出ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但勅令ヲ以テ之ヲ定ムルマテハ從前施行スル所ノ規程ニ依ルヘシ

第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○中央備荒儲蓄金會計規則 明治二十三年五月勅令第七十七號

朕中央備荒儲蓄金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央備荒儲蓄金會計規則

第一條 左ノ諸收入ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳入トス

第一 預金利子

第二 米穀賣拂代

第三 雜收入

第二條 左ノ諸支出ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳出トス

第一 府縣備荒儲蓄金補助

第二 米穀購入代

第三 米穀運送費

第四 糶摺及搗精費

第五 米穀保存及取扱費

第六 藏敷料及諸手数料

第三條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第四條 大藏大臣ハ其年三月三十一日現在ノ中央備荒儲蓄金高明細表



ヲ調製シ毎年度ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第五條 收入官吏ハ歳入ヲ收納スルトキハ中央備荒儲蓄金ノ寄托トシテ直ニ之ヲ預金局ニ拂込ヘシ

第六條 大藏大臣ハ府縣ノ備荒儲蓄金補助トシテ中央備荒儲蓄金ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局ニ下シテ寄托金ヲ支出セシメ之ヲ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第七條 大藏大臣ハ米穀ノ賣買保存ニ關スル費用ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局ニ下シ寄托金ヲ支出シ之ヲ主任官吏ニ交付セシメ主任官吏ヲシテ仕拂ヲ執行セシムヘシ

第八條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收入未濟トシテ順次翌年度へ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第九條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ支出ノ請

求ナキモノハ支出未濟トシテ其定額ヲ順次翌年度へ繰越シ支出ノ請求アル毎ニ仕拂ノ命令ヲ發スヘシ

第十條 米穀ヲ購入スルニ當リ臨時急施ヲ要スルトキハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

第十一條 入札ノ方法ヲ以テ米穀ヲ賣却スルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ三日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第十二條 收入官吏仕拂官吏及物品會計官吏ヨリ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送附スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第十三條 本規則ニ掲ケサル中央備荒儲蓄金會計ノ規程ハ總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ



○官有森林原野及產物特別處分規則 明治二十三年四月 勅令第六十九號

朕官有森林原野及產物特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有森林原野及產物特別處分規則

第一條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有森林原野及其產物ヲ競爭ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣却スルコトヲ得

一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡シ及其建築材料ヲ賣渡ストキ

二 開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡ストキ

三 鑛業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ薪炭材ヲ賣渡ストキ

四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ

五 非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡ストキ

六 從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若クハ土石ヲ賣渡ストキ

七 部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ

八 社寺建築營繕ノ爲メ該社寺上地ノ木材若クハ土石ヲ賣渡ストキ

九 地押調査ニ由リ發見シタル開墾地ヲ其開墾人ニ賣渡ストキ

十 建築其他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其發見人ニ賣渡ストキ

十一 季節アル生産物ヲ賣拂フトキ

十二 開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域内ニアル產物ヲ其借受人ニ賣拂フトキ

十三 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ產物ヲ賣渡ストキ

十四 部分方法ニ由リ林產物製造ノ爲メ其原料ヲ請負人ニ賣渡ストキ



- 十五 見積借地料一箇年金貳百圓ニ超へサル森林原野ヲ貸渡ストキ
- 十六 拾町歩以下ニシテ見積代價金貳百圓ニ超へサル森林原野ノ民有地又ハ道路河川ニ介在セルモノヲ接續地ノ所有者へ賣拂フトキ
- 十七 見積代價金貳百圓ニ超へサル木竹ヲ賣拂フトキ
- 第二條 農商務大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ隨意之ヲ賣拂フコトヲ得

○官有森林原野及產物特別處分規則ノ隨意契約準據方二十三年七月農商務省訓令第三十四號

- 明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則第一條
- 第二項ニ據リ隨意契約ヲ以テ原野ヲ賣渡ストキハ左ノ條項ニ準據ス可シ
- 第一條 原野賣渡願書ハ地方長官宛ニテ地元町村長ヲ經由シ所轄官廳ニ差出サシム可シ其願書ニハ賣渡出願ニ係ル原野所在ノ國郡町村字名地目段別素地相當代價ヲ記載シ且事業方法書收支豫算書及實測圖

ヲ添付セシムルヲ要ス

第二條 前條ニ據リ願書ヲ差出シタル者アルトキハ地方長官ハ其願書ニ意見ヲ附シ事業方法書收支豫算書及實測圖ヲ添へ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ其出願ニ係ル原野ノ段別五町歩已下ナルトキハ之ヲ專決スルコトヲ得

第三條 原野賣渡願書ハ總テ書留郵便ヲ以テ之ヲ差出サシメ若シ二人已上同地ニ付テ出願シタルトキハ地方長官ハ願書發送時日ノ前後ヲ取調へ意見ヲ附シ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ

第四條 原野ノ賣渡ハ總テ豫約ノ方法ニ據リ代價ヲ納付シタル後ニアラサレハ其所有權ヲ拂受人ニ移轉セシメサルモノトス其代價ハ事業成功ノ後拂受人又ハ其保證人ヲシテ所轄官廳ニ納付セシム可シ但事業成功ノ部分ニ對スル所有權ハ拂受人ノ請求ニ依リ其部分ニ相當スル代價ヲ納付セシメタル上之ヲ拂受人ニ移轉セシムルコトヲ得

第五條 賣渡ノ豫約ヲナス可キ原野ノ段別ハ四百町歩已内トス但土地ノ區域又ハ事業ノ方法ニ依リテハ特ニ此制限ノ超過ヲ許可スルコトアルヘシ

第六條 事業ノ成功期限ハ十五年已内ニ於テ之ヲ定メシメ若シ天災其他止ムヲ得サル事由ニ依リ中途拂受人ニ於テ豫定ノ事業方法又ハ成



功期限ノ變更ヲ要スルコトアルトキハ地方長官ハ其拂受人ヲシテ更ニ事業方法書及收支豫算書ヲ添へ願書ヲ差出サシメ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ

第七條 賣渡ノ豫約ヲナシタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徵收セサルモノトス

第八條 左ニ記載スル條項ハ拂受人ヲシテ之ヲ遵守セシム可シ

- 一 賣渡豫約ニ係ル土地ハ所轄官廳ノ許可ヲ得スシテ之ヲ他人ニ貸渡スヲ得サルコト
- 二 賣渡豫約土地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生スル損害ニ就テハ拂受人其責ニ任ス可キコト
- 三 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ滿六箇月已内ニ豫定ノ方法ニ從ヒ事業ニ著手ス可キコト
- 四 拂受人ハ前年ニ於ケル事業ノ功程ヲ翌年一月中ニ所轄官廳ニ報告ス可キコト
- 五 拂受人ニ於テ事業ニ著手シ及ヒ事業ノ成功シタルトキハ十日已内ニ所轄官廳ニ報告ス可キコト
- 六 賣渡豫約土地内ニ在ル木竹其他指定メタル物件ハ拂受又ハ特別ノ契約ヲナスニアラサレハ拂受人ニ於テ之ヲ採取シ若クハ使用ス可カラサルコト

七 地方長官ニ於テ官吏ヲ派遣シ事業ノ進否及方法ヲ検査セシムルトキハ之ヲ拒ムヲ得サルコト

八 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ十日已内ニ標杭ヲ境界ニ建設スヘキコト

九 事業ハ必ス豫定ノ方法書ニ依テ之ヲ爲ス可キコト

第九條 拂受人第八條ニ記載スル事項ヲ遵守セス又ハ成功期限ニ至リ事業成功セサルトキハ豫定通成功セル部分ニシテ相當ノ代價ヲ納付シタルモノハ之ヲ除キ其他ハ所轄官廳ニ返還セシム可シ

前項ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ官廳ニ於テ之ヲ辨償セス又返還地ニ在ル植物建物等ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ取拂ハシム可シ

第十條 從前開墾牧畜ノ爲メ原野賣渡豫約ヲナシタルモノニシテ既定ノ契約ナキ事項ハ更ニ此規定ニ據リ取扱フ可シ

○官有地特別處分規則

明治二十三年七月 勅令第三百三十五號

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



官有地特別處分規則

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ

二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡ストキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス

三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡ストキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シ

タル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡ストキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

○北海道官有未開ノ土地拂下貸下方 明治二十三年三月 勅令第五十五號

北海道官有未開ノ土地拂下貸下方



朕北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關シテハ從前ノ規則ニ依ラシメ會計法第  
二十四條ニ規定スル競争ノ方法ヲ用ヒス

○會計年度開始前現金支出規則 明治二十二年七月  
勅令第九十五號

朕會計年度開始前現金支出規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計年度開始前現金支出規則

第一條 各省大臣ハ會計法第十五條第二項ニ依リ現金前渡ヲナスニ當リ該  
年度ノ未タ開始セサルトキハ其前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ其計算書ヲ作  
リ大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 大藏大臣前條ノ計算書ヲ檢視シ現金前渡ヲ正當ト認メタルトキハ

之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三條 前各條ニ定メタルモノ、外仕拂命令發付ノ方法及該仕拂命令ニ對  
スル仕拂ノ手續ハ總テ會計規則ニ依ル

○前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程 二十二年十二月  
會計法第二十三條但書ニ依リ前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル  
ノ取扱規程ヲ定ム

前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程  
第一條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要スルモノ  
アルトキハ仕拂命令官ヨリ返納人ニ對シ返納告知書ヲ發スヘシ

第二條 返納人ハ返納告知書ニ現金ヲ添へ其返納告知書ニ指定シタル  
金庫ニ之ヲ拂込ミ金庫ノ別符付領收證ヲ得直チニ領收證ノ檢印及ヒ  
別符ノ切離ヲ仕拂命令官ニ請求スヘシ

第三條 仕拂命令官金庫ノ領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シタルトキハ定  
額戻入ノ要求ヲナサンニトヲ本屬大臣ニ申立ヘシ  
第四條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要セサルモ  
ノハ通常歳入金取扱手續ニ依リ返納人ヲシテ金庫又ハ收入官吏ニ納



入セシムヘシ

第五條 本規程ニ依リ發スル返納告知書ハ左ノ書式ニ依リ調製スヘシ  
(書式略之)

○仕拂命令委任規程 明治二十二年七月 勅令第八十九號

朕仕拂命令委任規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

仕拂命令委任規程

第一條 各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂命令ヲ發セシム  
ルトキハ會計規則第十一條ニ據リ仕拂豫算額ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ  
第二條 委任ヲ受タル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有ス

○國債ニ關スル仕拂及收入金決算方 明治二十三年三月 勅令第二十號

朕國債ニ關スル仕拂及收入金決算ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 會計法第十五條第二項ニ依リ國債元利金仕拂ノ爲メ銀行ニ現金ノ  
前渡ヲ爲シタルトキハ會計規則第九十八條ニ準シ銀行ヲシテ其仕拂ヲ會  
計検査院ニ證明セシムヘシ  
第二條 法律命令ニ依リ日本銀行ヲシテ國債ノ募集又ハ借入ヲ取扱ハシム  
ルトキハ日本銀行ハ大藏大臣定ムル所ノ期限ニ出納ノ計算書ヲ製シ會計  
検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ  
第三條 大藏省國債局長ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ  
之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ



○在外公館經費中前金拂ノ費目 明治二十三年三月 勅令第三十二號

朕在外公館經費中前金拂ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外公館經費中左ノ費目ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

租 稅 區費其他雜稅 公館借料

○陸軍給與ニ關スル委任經理 明治二十三年三月 法律第二十七號

朕陸軍給與ニ關スル委任經理ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍軍隊ノ糧食被服消耗品陣營具及馬匹ニ係ル給與ハ其定額ヲ各

隊ニ交付シ隊長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第二條 陸軍諸學校生徒ニ屬スル給與其他軍隊ニ準據スヘキ必要アルモノ

ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ經理ヲ委任スルコトヲ得

第三條 委任經理ニ係ル給與ノ殘金ハ各其費目ニ屬スル積立金ト爲シ便  
宜之ヲ使用スルコトヲ得

第四條 委任經理ニ屬スル廢物賣却代及損壞遺失等ノ補償金ハ各其經理  
費ニ充ルコトヲ得

第五條 委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ニ依ル

第六條 此法律ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

會計検査院法  
ハ本類ニ載ス

○貨幣鑄造ノ地金買入方 明治二十三年六月 勅令第一百四號

朕貨幣鑄造ニ要スル地金買入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣鑄造ニ要スル地金銀銅白銅ノ買入ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム此



場合ニ於テハ競争ニ付セザルコトヲ得

○ 出納官吏身元保證金納付方 明治二十三年一月 勅令第四號

朕出納官吏身元保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 左ノ出納官吏ニシテ其取扱金額一箇年五百圓以上又ハ常時保管スル物品ノ價格千圓以上ニ達スルモノハ身元保證金ヲ納ムヘシ

第一 現金ノ領收ヲ常職トスル官吏

第二 常時現金前渡ヲ受クル官吏

第三 物品會計官吏

第二條 身元保證金ハ就職ノ時納付スヘキモノトス但現ニ明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニ限り明治二十三年四月以後明治二十八年三月

月マテ五箇年間ヲ期シ其身元保證金額ヲ平分シ毎年四期又ハ毎月ニ之ヲ

納付セシムヘシ

前項明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニシテ土地若クハ公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用セントスル者ハ明治二十三年九月マテニ一時ニ納付セシムヘシ

第三條 身元保證金ニ代用セントスル公債證書ハ有利足ノモノヲ以テシ其

價格ハ明治二十三年三月中東京取引所平均ノ相場ニ依リ爾後五箇年毎ニ其年三月中ノ同所平均相場ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ但明治二十三年三月以後新ニ發行シタル公債證書ノ價格ハ身元保證金納付前月ノ東京取引所ノ平均相場ニ依リ爾後本條ノ期限ト同時ニ其價格ヲ改定スヘシ

第四條 身元保證金ニ代用セントスル土地ノ價格ハ總テ土地臺帳ニ登記ノ價格ニ依ルヘシ

第五條 會計規則第百五條第二項ニ依リ身元保證金ニ代用シタル公債證書



若クハ土地ヲ公賣スルトキ其公賣公告入費ハ損失金ノ辨償ヲ命セラレタ  
ル出納官吏ヲシテ辨償セムヘシ

第六條 出納官吏ノ身元保證金納入拂戻等ニ關スル取扱規則ハ大藏大臣ノ  
定ムル所ニ依ル

○出納官吏身元保證金取扱規則 二十三年一月  
大藏省令第一號  
本年勅令第四號第六條ニ依リ出納官吏身元保證金取扱規則左ノ通り相  
定ム

出納官吏身元保證金取扱規則

第一條 出納官吏會計規則第三百三條ニ依リ現金ヲ以テ身元保證金ヲ納  
付セントスルトキハ其現金ヲ預金局預金ノ取扱所ニ預ケ入レ其保管  
證書ヲ得之ニ納付書ヲ添へ各省大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ納付スヘ  
シ

第二條 出納官吏會計規則第三百三條但書ニ依リ土地ヲ以テ現金ニ代用  
セントスルトキハ各省大臣定ムル所ノ規程ニ依リ認可ヲ得タル後チ  
土地ノ所在地價格及登記ヲ受ケントスル日限ヲ記シタル請求書ニ通  
ヲ製シ各省大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三條 大藏大臣ハ前條ノ申出ニ依リ登記日限ヲ定メ土地所在地ノ北  
海道廳長官府縣知事ニ命シ登記法第二十一條ノ手續ヲ代理セシムヘ  
シ

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ土地ノ登記ヲ了シタルトキハ其書入  
證書ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五條 出納官吏會計規則第三百三條但書ニ依リ現金ニ代用スル公債證  
書ハ記名トシ利札付ノマ、之ヲ金庫ニ預ケ入レ其保管證書ヲ得之ニ  
書入證書ヲ添へ各省大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ納付スヘシ

第六條 大藏大臣ハ前四條ニ依リ身元保證金ノ納付済トナリタルトキ  
其納付済證ヲ製シ各省大臣ヲ經テ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ但シ明  
治二十三年勅令第四號第二條但書ノ場合ニ於テ大藏大臣ハ納付ノ都  
度其假納付證ヲ交付シ完納ニ至テ納付済證ト交換スヘシ

第七條 明治二十三年勅令第四號第二條但書ニ據リ身元保證金ヲ納付  
スルモノハ本年二月末日マテニ四期納付又ハ毎月納付ノ一ヲ撰ミ各  
省大臣へ願出ツヘシ

各省大臣ハ前項ノ請願ヲ認可シタルモノヲ取纏メ本年三月十五日マ  
テニ之ヲ大藏大臣ニ通知スルモノトス

第八條 明治二十三年勅令第四號第二條但書ニ據リ身元保證金ヲ納付  
スルモノハ左ノ期限ニ依ル

出納官吏身元保證金納付方



- 四期納付ノ分
  - 第一期 六月末日マテ
  - 第二期 九月末日マテ
  - 第三期 十二月末日マテ
  - 第四期 三月末日マテ
- 毎月納付ノ分
- 毎月末日マテ

第九條 出納官吏土地若クハ公債證書ヲ以テ現金ニ代用シタル場合ニ於テ明治二十三年勅令第四號第三條及ヒ第四條ノ計算ニ依リ身元保證金額ニ對シ過剩ヲ生スルコトアルモ其儘納付スルハ妨ケナシ

第十條 出納官吏公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用シタル場合ニ於テハ其利子渡期ニ至リ前ニ公債證書ヲ預入タル金庫ニ於テ其利札ヲ受取ルヘシ

第十一條 會計規則第一百條ニ依リ身元保證金ノ拂戻ヲ要スルトキハ出納官吏ハ各省大臣ヲ經由シテ責任解除ヲ得タルコトヲ大藏大臣ニ證明シ身元保證金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第十二條 身元保證金ヲ拂戻ストキ現金及公債證書ハ大藏大臣ヨリ各省大臣ヲ經テ保管證書又ハ書入證書ヲ出納官吏ニ返付スヘシ又土地ハ大藏大臣其書入證書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ送付シ書入ノ解除

ヲナス爲メ登記法第二十三條ノ手續ヲ代理セシメ書入證書ヲ出納官吏ニ返付セシムヘシ

前項保管證書又ハ書入證書ハ身元保證金ノ納付済證ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第十三條 前條ニ依リ北海道廳長官府縣知事ニ於テ土地書入解除ノ手續ヲ了シタルトキハ其旨大藏大臣ニ届出テ大藏大臣ハ其旨ヲ各省大臣ニ通知スヘシ

第十四條 會計規則第一百五條ニ依リ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テントスルトキハ各省大臣ヨリ會計検査院判決書ノ寫ヲ添ヘテ其旨ヲ大藏大臣ニ照會スルモノトス

前項ノ合場ニ於テ大藏大臣ハ直ニ各省大臣ノ照會ニ應シ出納官吏ノ身元保證金(土地公債證書ハ公賣ノ後)ヨリ損失金ノ辨償ニ充ツヘキ金額ヲ差引シ其旨各省大臣及ヒ出納官吏ニ通知スヘシ

第十五條 大藏大臣ハ會計規則第一百五條第二項ノ場合ニ於テ土地公債證書ヲ公賣シタルトキハ同時ニ出納官吏ニ向テ公賣公告入費ノ辨償ヲ命スヘシ

第十六條 會計規則第一百五條第三項及ヒ第一百六條ノ場合ニ於テ各省大臣ハ直ニ其辨償追徴ノ手續ヲ履行シ其始末ヲ大藏大臣ニ通知スルモノトス

出納官吏身元保金證納付方



第十七條 會計規則第百八條ニ依リ各省大臣身元保證金ノ追納期限ヲ指定シタルトキ及ヒ會計規則第百九條第一項ニ依リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ各省大臣ヨリ其追納期限及ヒ増納期限起算日ヲ大藏大臣ニ通知スルモノトス

○出納官吏現金取扱規則二十二年十月十三號  
大藏省令第十三號  
出納官吏現金取扱規則左ノ通り相定ム

出納官吏現金取扱規則

第一章 義務委託

第一條 金庫所在地ノ出納官吏ハ其取扱フ所ノ現金ヲ保管ノ爲メ其地ノ金庫ニ委託スヘシ

第二條 前條ニ據リ委託ヲ爲サントスルトキハ出納官吏ハ其資格氏名ヲ記シタル印鑑二通ヲ大藏大臣ニ送付シ同時ニ其旨ヲ金庫ニ申込ムヘシ

第三條 出納官吏ヨリ保管金ノ拂込ヲナストキハ金庫ハ其保管證書ヲ製シ現金ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第四條 大藏大臣ハ第二條ノ印鑑送付ヲ受ルトキハ出納官吏ノ資格ヲ調査シ一通ノ印鑑ヲ金庫ニ送付シ同時ニ其旨ヲ出納官吏ニ通知スヘシ

第五條 金庫ハ大藏大臣ヨリ出納官吏ノ印鑑送付ヲ受クルトキハ保管

金引出切符用紙ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第六條 出納官吏ハ保管金ノ仕拂ヲ金庫ニ請求セントスルトキハ總テ引出切符ヲ以テスヘシ

第七條 出納官吏ハ其委託シタル保管金ト同種ノ貨幣ヲ以テ仕拂ヲ請ハントスルトキハ拂込ノ際特ニ之ヲ金庫ニ求ムヘシ拂込ノ際特別ノ請求ナキモノハ總テ有合ノ通貨ヲ以テ仕拂フヘシ

第八條 出納官吏ハ其委託シタル保管金ヲ以テ收入又ハ返納ノ爲メ金庫ニ拂込ヲサントスルトキハ引出切符ヲ以テ拂込ヲナスヘシ

第九條 金庫ハ毎年三月三十一日ニ於テ其年度中ニ委託セラレタル保管金額ヨリ仕拂タル金額ヲ扣除シ其殘金額ニ對シ更ニ保管證書ヲ製シ同年中ニ出納官吏ニ交付シタル保管證書ト引換フヘシ

第十條 陸海軍隊費ニシテ現金仕拂ヲ要スル場合及應中雜費工事費ニシテ小口ノ現金仕拂ヲ要スル場合ニ於テハ金庫所在地ニアリテモ所要ノ金額ヲ限リ本規則第二章ニ據リ現金ヲ保管スルコトヲ得  
前項所要ノ金額ハ仕拂命令官之ヲ定ム

第二章 隨意保管

第十一條 金庫ノ設ナキ場所ニ於テ現金ヲ保管スル所ノ出納官吏ハ堅牢ナル函ヲ備ヘ之ニ其保管ニ係ル現金及ヒ出納ノ帳簿ヲ藏置スヘシ  
二人以上共同責任ヲ以テ現金ヲ保管スル場合ニ於テハ二箇以上ノ鎖

出納官吏身元保證金納付方



ヲ有スル堅牢ノ函ヲ備ヘ出納官吏其鎖鑰ヲ分管スヘシ  
出納官吏現金ヲ携帶シテ旅行スル場合ニ於テハ前二項ニ據ラス相當  
ノ保護法ヲ設ルコトヲ得

第十二條 出納官吏ノ保管ニ係ル現金ハ私有金ト混スルヲ得ス

第十三條 出納官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ其現金ヲ官金ト  
同一ノ函中ニ藏置スルコトヲ得

第十四條 出納官吏ハ第十一條ニ據リ現金保管ヲナシ難キ場合ニ於テ  
ハ自己ノ責任ヲ以テ確實ナル銀行又ハ身代ノ確實ナル一人ニ其保  
管スヘキ現金ノ保管ヲ托スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ私金ト區別シ其計算ヲ混スヘカラス

第三章 拂込

第十五條 金庫所在地ノ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納ス  
ルトキハ毎日之ヲ取纏メ拂込書ヲ添ヘテ翌日マテニ金庫ニ拂込ムヘ  
シ但收入金額五拾圓未滿ナルトキハ每一ヶ月取纏メ金庫ニ拂込ムコ  
トヲ得

第十六條 金庫ノ設置ナキ地方ノ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入  
ヲ收納スルトキハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ取纏メ拂込書ヲ添テ大藏大臣  
ノ指定シタル金庫ニ拂込ムヘシ但次條ニ定メタル場合ハ此限ニアラ  
ス

第一 收入金高五拾圓未滿ハ 每一箇月(二十三年大藏省令第十三號ヲ以テ本項ヲ追加シ從前ノ第一以下順次繰下)

第二 同 百圓未滿ハ 毎十日

第三 同 三百圓未滿ハ 毎五日

第四 同 三百圓以上ハ 翌日限

第十七條 外國及運輸通信ノ不便ナル地方ニシテ金庫ノ設置ナキ場合  
ニ於テ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スルトキハ毎月其  
金額ヲ取纏メ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ報告シ同時ニ其金  
額ノ監守證ヲ製シテ大藏大臣ノ指定シタル金庫ニ送付スヘシ

第十八條 金庫ハ前條ノ場合ニ於テ收入官吏ト同場所又ハ其場所ト爲  
替送金ノ便アル地方ニ於テ仕拂フヘキ仕拂命令ヲ受ルトキハ收入官  
吏ノ監守證ニ別符付ノ領收證ヲ添ヘテ之ヲ受取人ニ送付スヘシ

第十九條 收入官吏ハ前條ノ受取人ヨリ監守證ヲ以テ現金ノ拂渡ヲ請  
求セラルトキハ其監守證ト引換ニ現金ヲ交付シテ金庫ノ領收證ヲ  
受クヘシ

雜則

第二十條 本規則ハ收入官吏現金前渡ヲ受タル官吏特別會計ニ係ル官  
金出納官吏ニ適用ス

第二十一條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス



○郵便爲替金及貯金ノ出納官吏身元保證金 明治二十三年六月 勅令第百五號

朕郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ハ明治二十三年勅令第四號第一條ノ制限ニ依ラス身元保證金ヲ納ムヘシ

第二條 三等郵便電信局及三等郵便局ノ前條出納官吏ニハ明治二十三年勅令第四號第二條ノ但書ヲ適用セス

第三條 會計規則第百四條第百五條及明治二十三年勅令第四號第六條ニ依リ大藏大臣ノ爲スヘキ職務ハ遞信大臣之ヲ行フヘシ

○歳入歳出外現金出納取扱官吏ノ準則 明治二十三年三月 勅令第三十五號

朕政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章及第九章中現金ヲ領收スル收入官吏ニ關スル各條ニ準據ス

○保管金規則 明治二十三年一月 法律第一號

朕保管金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
保管金規則

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金

歳入歳出外現金出納取扱官吏ノ準則 保管金規則



ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿三十年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條 保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

○保管金取扱規程二十三年三月八日 大藏省令第八號  
本年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄托スル保管金取扱規程左ノ通相定ム

保管金取扱規程

第一條 明治二十三年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄托スル保管金ハ此規程ニ依テ取扱フモノトス但從來預金局ニ寄托シタルモノハ當分ノ内從前ノ取扱ニ依ル

第二條 保管金ノ受渡ハ東京市内ニ於テハ預金本局其他ハ各地本金庫又ハ支金庫ニ於テ取扱フモノトス

第三條 保管金ハ權利者ヨリ現金ヲ拂込ムモノト各廳ヨリ拂込ムモノトノ二種ニ分チ之ヲ取扱フモノトス

第四條 權利者ヨリ現金ヲ拂込ムトキハ總テ取扱官廳ヨリ寄托通知書ヲ得テ之ニ現金ヲ添ヘ預金本局又ハ各地ノ金庫ニ差出スヘシ但出納官吏身元保證金ヲ拂込ムトキハ寄托通知書ヲ要セス

第五條 取扱官廳ハ權利者ヲシテ現金ヲ拂込マシムルトキハ第一號書式ニ依リ寄托通知書ヲ製シテ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第六條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ第四條ノ拂込ヲ受クルトキハ第二號書式ノ保管證書ヲ製シテ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第七條 各廳ヨリ現金ヲ拂込ムトキハ主任官吏ニ於テ第三號書式ニ依リ保管金送付書ヲ製シ現金ト共ニ之ヲ預金本局又ハ各地ノ金庫ニ送付スヘシ

第八條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ前條ノ拂込ヲ受ルトキハ第四號書



式ノ保管金領收證書ヲ製シテ之ヲ拂込官吏ニ交付スヘシ

第九條 本規程第五條第七條ニ依リ寄托通知書又ハ保管金送付書ヲ發スルモノハ豫メ取扱官廳ヨリ廳印及取扱主任官吏印ノ印鑑ヲ預金本局又ハ各地金庫へ送付スヘシ

廳印ノ改正又ハ主任官吏ノ變更改印ノトキハ廳印又ハ主任官吏印ノ印鑑ヲ預金本局並ニ取扱金庫へ送付スヘシ

第十條 權利者ニ於テ其拂込タル保管金ノ拂戻ヲ請求セントスルトキハ取扱官廳ノ裏書ヲナシタル保管證書ヲ得テ之ヲ預金本局又ハ當初拂込ヲナシタル金庫ニ差出スヘシ

第十一條 取扱官廳ハ保管金ノ拂戻ヲ要スルトキハ保管證書ニ第五號書式ノ如ク裏書ヲナシ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第十二條 取扱官廳ハ保管金ノ政府ノ所得ニ歸シタル場合ニ於テハ保管證書ノ裏面ニ其事由ヲ記載シ收入官吏ヲシテ一般歳入トシテ之ヲ金庫ニ拂込マシムヘシ

第十三條 保管金領收證書ヲ發シタル保管金ニシテ失權ノ期限ニ至ルトキハ預金局ニ於テ一般歳入トシテ納付ノ手續ヲナシ其旨ヲ保管金ヲ寄托シタル官廳へ通知スヘシ

第十四條 取扱官廳ハ保管金ノ幾分ヲ歳入トナシ其幾分ヲ權利者ニ拂戻スコトヲ要スルトキハ保管證書ニ事由書ヲ付シ保管證書ノ分割ヲ

當初拂込ヲナシタル預金本局又ハ各地ノ金庫ニ請求スヘシ

第十五條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ新ニ二葉ノ保管證書ヲ製シテ舊保管證書ト交換スヘシ

第十六條 預金本局又ハ各地金庫ニ於テ權利者ヨリ保管金拂戻ノ請求ヲ受ルトキハ保管證書ト引換ニ其金員ヲ權利者ニ交付スヘシ

第十七條 各廳ヨリ數人ノ權利者ニ屬スル保管金ヲ取纏メテ拂込ムトキハ保管金送付書ニ各權利者ノ金額氏名及期滿失効ノ年月日ヲ記シタル別紙ヲ添付スヘシ但權利者ノ不明ナルモノハ其旨ヲ保管金送付書ニ記入スヘシ

第十八條 權利者ニ於テ各官廳ヨリ拂込タル保管金ノ拂戻ヲ受ントスルトキハ其事由ヲ具シテ其取扱官廳ニ申出ヘシ取扱官廳ハ之ヲ調査シテ拂戻スヘキ理由アリトスルトキハ第六號書式ノ拂戻金證明書ヲ權利者ニ交付スヘシ

權利者ハ拂戻金證明書裏面ニ式ノ如ク記名捺印シ之ヲ預金本局又ハ當初其官廳ヨリ拂込タル金庫ニ差出シテ其拂戻ヲ受クヘシ

第十九條 預金本局又ハ各地金庫ハ權利者ヨリ前條ノ請求ヲ受ルトキハ取扱官廳及主任官吏ノ印影ニ照合シ相違ナキモノハ領收證書ト引換ニ其金員ヲ權利者ニ交付スヘシ

第二十條 保管金ノ利子ハ毎年六月十二月ノ二期ニ分チ之ヲ計算スヘシ



第二十一條 保管金ノ利子ハ毎年七月一月預金局ニ於テ各權利者毎ニ第七號書式ノ保管金利子證券ヲ製シ取扱官廳へ送付スヘシ  
取扱官廳ニ於テ前項ノ證券ヲ受取タルトキハ取扱主任官吏ニ於テ式ノ如ク捺印シ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

權利者ニ於テ保管金利子證券ヲ受取タルトキハ之ヲ以テ利子仕拂ヲ保管金利子證券ニ記載アル預金本局又ハ本支金庫ニ請求スヘシ(三十二年大藏省令第十五號ヲ以テ本項中改正)

第二十二條 預金本局又ハ本支金庫ハ前條ノ保管金利子證券ト引換ニ現金ヲ仕拂フヘシ(二十三年大藏省令第十號ヲ以テ本條中改正)

第二十三條 保管證書ヲ亡失シタルトキ第十一條ノ裏書ヲナサハルモノハ再渡シ其裏書ヲナシタルモノハ再渡セス取扱官廳ヨリ裏書同様に證明ヲ得尙保證人ヲ立テシメ保管金ヲ拂戻スヘシ  
保管證書ヲ汚染毀傷シ證書ノ要點ヲ見認メ難キニ至リタルモノハ前項ニ準シテ證書ノ交換又ハ保管金ノ拂戻ヲナスヘシ  
(書式略之)

○政府保管ノ義務アル公私有金寄托方明治二十三年一月勅令第貳號

朕政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

預金規則ニ定メタルモノ、外法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有金私有金ハ總テ大藏省預金局ニ寄托スヘシ  
法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依ルノ外政府ハ公有金私有金ヲ保管セス

○預金規則明治十八年五月第十三號布告

預金規則左ノ通制定ス



預金規則

- 第一條 大藏省中ニ預金局ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシム
- 第一 「驛遞局貯金」
- 第二 各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金
- 第三 社寺教會會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其請願ニ據ルモ
- 第二條 預リ金取扱手續ハ「大藏卿」之ヲ定ム
- 第三條 預リ金ノ利子割合ハ「大藏卿」之ヲ定ム
- 第四條 預リ金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス
- 第五條 預リ金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ得ス
- 第六條 預リ金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス
- 第七條 「大藏卿」ハ便宜ノ地ヲ撰ミ預金局出張所ヲ設置シ又ハ國庫金取扱

所ヲシテ預リ金受渡ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第八條 預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

○預金取扱手續大藏省第十八號告示  
 本年五月第十三號布告預金規則第一條第三項社寺教會々社及人民共有ニ係ル預金取扱手續左ノ通相定ム

預金取扱手續

- 第一條 預ケ金受渡ハ東京ハ預金局各地方ハ國庫金取扱所(稅關國庫金取扱所ヲ除ク)ニ於テ取扱フモノトス  
 但東京府下郡部ニ設置ノ國庫金出納支所ニ於テモ各地方預ケ金ノ受渡ヲ取扱フモノトス(二十年大藏省告示第八號)
- 第二條 預ケ金ヲ分テテ通常定期ノ二種トス
- 第三條 通常預ケ金ハ金額ヲ限ラス拂戻期限ヲ定メサルモノトシ定期預ケ金ハ金額百圓以上期限ヲ滿六ヶ月ヨリ十八ヶ月迄トス  
 但金貨ニ限リ金額拾圓以上ヲ定期預ケ金トシ同種類ヲ以テ拂戻シヲ得ルモノトス(二十年大藏省告示第六號)
- 第四條 通常預ケ金ヲ始メテ預ケ入ルルハ申込書(第一式)及印鑑二枚ヲ其

二十三年大藏省告示第十四號  
 取扱手續及國庫金  
 出納所トアル  
 各地中央金庫及  
 各地中央金庫トシ  
 得ヘキ旨ヲ示ス  
 二十三年大藏省告示第二十號  
 一會告示第二十號  
 金局金貨預リ  
 於各地金庫ニ  
 於テハ廢止ス



預リ所東京ハ預金局各地方ハ國庫ニ差出スヘシ  
 第五條 預ケ主ハ預リ所ニ於テ預金通帳ヲ受取リ預ケ金ヲナス毎ニ之ヲ其預リ所ニ差出シ金員及年月日ノ記入預リ所ノ印主務者ノ調印ヲ受クヘシ  
 第六條 預金局へ直ニ預ケ入タル通常預ケ金ノ拂戻ヲナスキハ請求書(第二式)ニ通帳ヲ添へ預金局へ差出シ其金員ヲ受取ルヘシ  
 第七條 各地國庫金取扱所へ預ケ入タル預ケ金ノ拂戻ヲナスキハ請求書(第二式)ヲ其取扱所ヲ經テ預金局へ差出スヘシ  
 第八條 預金局ニ於テ前條拂戻請求所ヲ受ケタルキハ拂戻證書(第三式)ヲ請求人へ送達スヘシ請求人ハ該證書ノ請取欄内ニ記名調印ヲナシ取扱所ヨリ其金員ヲ受取ルヘシ  
 第九條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日附ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ若シ期日ヲ失スルキハ取扱所ヲ經テ更ニ預金局へ其證書ノ書替ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス  
 東京ヨリ 百里未滿 二十日  
 二百里未滿 三十日  
 二百里以外 四十日  
 第十條 通常預ケ金ノ全額ヲ拂戻スキハ通帳ヲ返付セズ又其幾分ヲ拂戻スキハ預リ所ニ於テ其通帳ニ拂戻金員及年月日ヲ記載シ預リ所ノ

印主務者ノ調印ヲナシ之ヲ返付スヘシ  
 第十一條 通常預ケ金ハ預ケ入レタル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ付セス但預リ所へ預ケ入レタル月ヲ以テ預ケ月トシ預金局ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月符東京ハ金庫局仕拂切ヲ以テ拂戻シ月トス(十九年大藏省告示第七號ヲ以テ改メ)  
 第十二條 通常預ケ金ヨリ生スル利子ハ毎年六月十二月ノ兩期ニ分チ之ヲ其元金ニ組入ルヘシ  
 第十三條 預ケ主ハ毎年三月九月ニ於テ通帳ヲ其預リ所ニ差出シ前條利子ノ記入ヲ受クヘシ  
 第十四條 元金ニ加ヘサル通常預ケ金ノ利子ハ預ケ金ノ全額ヲ拂戻スキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス  
 第十五條 一ノ預リ所ヨリ請取タル通帳ヲ以テ他ノ預リ所ニ於テ預ケ入拂戻ヲナスコトヲ得ス  
 第十六條 預金通帳ハ預ケ金受授ノ證トス  
 第十七條 定期預ケ金ヲナスキハ申込書(第四式)及印鑑二枚ヲ預リ所ニ差出シ其金員ヲ預ケ入レ定期預リ金證書ヲ受取ルヘシ  
 第十八條 定期預ケ金ヲ受取ルキハ其預リ金證書ノ受取欄内ニ元利金額受取ノ記入ヲナシ記名調印ノ上之ト引替ニ其金員ヲ受取ルヘシ  
 第十九條 定期預ケ金ヲ引續キ預ケ入ルキハ更ニ期限等ヲ認メタル申



込書ヲ左ノ日割ニ據リ其預リ所ニ差出シ置キ滿期ニ至リ新舊證書ノ引替ヲナスヘシ

百里未滿ハ滿期ヨリ三十日前  
東京ヨリ二百里未滿ハ滿期ヨリ四十日前  
二百里以外ハ滿期ヨリ五十日前

第二十條 定期預ケ金ノ利子ハ預リ所ニ預リタル翌日ヨリ滿期當日迄日歩割ヲ以テ計算スルモノトス

第二十一條 金銀貨ヲ預ケ入同種類ヲ以テ拂戻ヲ要スル分ト雖モ利子ハ有合ノ通貨ヲ以テ支拂モノトス(二十年大省職告示第百六十一號ヲ以テ改正)

第二十二條 定期預ケ金ハ其期限内之ヲ引出スコトヲ得ス

第二十三條 預ケ金ヲ直ニ預ケ入ルルハ金庫局ニ現金ヲ納付シ全局ノ領收證書ヲ以テ預ケ入ルモノトシ又其拂戻ヲナスキハ預ケ金局ヨリ金庫局仕拂切符ヲ以テ拂渡スモノトス(十九年大藏省第七號告示ヲ以テ出納局ヲ金庫局改局)

第二十四條 各地國庫金取扱所ニ於テ取扱ヒタル預ケ金ハ其報告ニ依リ預ケ金局ノ帳簿ニ登記シ全局ヨリ帳記濟ノ通知書ヲ其預ケ主ヘ送付スヘシ

第二十五條 國庫金取扱所ヘ預ケ金ヲナシタル後左ノ期日迄ニ前條ノ通知書到達セサルキハ預ケ主ハ其日限ノ翌日ヨリ一週間以内又到達

セシモ金員年月日ニ相違アルキハ到達ノ翌日ヨリ一週間以内ニ其旨ヲ認タル通知書ヲ預ケ金局ヘ發送スヘシ

百里未滿 二十日  
二百里未滿 三十日  
東京ヨリ二百里未滿 三十日  
二百里以外 五十日

第二十六條 預ケ金拾錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第二十七條 預ケ入申込書及拂戻請求書其他調印ヲ要スル書類ニハ社寺教會々社ニアリテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲナシ其擔當者一名記名調印シ又二人以上ノ共同ニ係ルモノハ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ

第二十八條 社寺教會々社ノ預ケ金ハ社寺教會々社ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做シ又共同ニ係ル預ケ金ハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做スヘシ

第二十九條 社寺教會々社并其擔當者及共有預ケ金ノ總代人并加印者氏名變換又ハ轉住セシキハ其届書ヲ預リ所ニ差出スヘシ

第三十條 預ケ金擔當者總代人若クハ加印者變更アルキハ後任者ノ印鑑二枚ヲ添ヘ連署ノ届書ヲ預リ所ヘ差出スヘシ但前任者連署シ能ハサルキハ證人ヲ立ツヘシ

第三十一條 預金通帳定期預リ金證書又ハ拂戻證書ヲ失亡セシキ或ハ



汚染毀傷シテ文字印章判明ナラサルキハ其事由ヲ詳記セシ届書ヲ預  
 リ所ニ差出シ再渡ノ請求ヲナスヘシ但通帳又ハ證書失亡ノ場合ニ於  
 テ再渡ヲ受ケシ後ハ舊通帳又ハ證書ハ無効トシ爾後發見セシキハ之  
 ヲ預リ所へ納付スヘシ

第三十二條 預金通帳又ハ定期預リ金證書ハ大藏省官員ヨリ検査照合  
 等ヲ要スルコトアルヘシ但該官員臨檢ヲナスキハ其證據書ヲ携帶スル  
 モノトス  
 (書式畧之)

○供託規則 明治二十三年七月  
 勅令第四百四十五號

朕供託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

供託規則

第一條 法律ノ規定ニ依リ供託スル所ノ金錢有價證券ハ總テ大藏省預金局  
 ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第二條 供託シタル金錢ハ拂込ノ日ヨリ六十日ヲ過ルトキハ拂込ノ翌月ヨ

リ拂渡請求ノ前月マテ通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

第三條 供託ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣定ムル所ノ式ニ依リ供託書ヲ  
 製シテ供託物ニ添ヘ其申込ヲ爲スヘシ

第四條 供託者ハ民法財産編第四百七十七條債權擔保編第二百六十八條及  
 商法第七百四十條ノ場合ニ於テハ其供託シタル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第五條 供託物ハ供託者ノ指定シタル者ニ拂渡シ又ハ裁判所ノ通知ニ依リ  
 拂渡スヘキモノトス但供託者ニ於テモ其受領スヘキ理由アルコトヲ證明  
 シ返戻ヲ請求スルコトヲ得

第六條 有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ヲ受取ントスルトキハ有權者ヨ  
 リ大藏省預金局ニ請求スヘシ此請求ナキトキハ政府ハ損害ノ責ニ任セザ  
 ルヘシ

第七條 前條ノ請求ニ依リ大藏省預金局ニ於テ受取リタル償還金利子又ハ



配當金ハ代供託物又ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管スヘシ

○

○金庫規則 明治二十二年十二月  
勅令第百二十六號

朕金庫規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

金庫規則

第一條 金庫ハ國庫ニ於テ保管出納スル現金ヲ取扱フ所トス

第二條 金庫ヲ分テ左ノ三種トス

第一 中央金庫

第二 本金庫

第三 支金庫

第三條 東京ニ中央金庫ヲ置キ各府縣廳下東京府  
ヲ除ク及北海道札幌函館根室ニ

本金庫ヲ置ク

大藏大臣ハ右ノ外必要ト認ル場所ニ支金庫ヲ設置スヘシ

第四條 金庫ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第五條 中央金庫ハ各地ノ本金庫ヲ統轄シ本金庫ハ所屬ノ支金庫ヲ總轄ス

但東京府下ノ支金庫ハ直ニ中央金庫ニ於テ總轄ス

第六條 中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハ

シム

第七條 日本銀行ハ本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ヲ取扱フ爲メ各地ニ其

支店又ハ代理店ヲ設置スヘシ

第八條 日本銀行ノ支店長又ハ日本銀行ノ代理店長ハ金庫出納役ノ代理人

トシテ其事務ヲ分擔スヘシ

但代理店ノ支店ニ於テ金庫ノ事務ヲ取扱フトキハ代理店長其支店長ニ

代理ノ事務ヲ委囑スヘシ



第九條 日本銀行ハ第七條ニ據リ各地ノ代理店ヲ定メントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス

第十條 大藏大臣ハ検査官吏ヲ派出シ何時ニテモ金庫ノ金櫃帳簿ヲ検査スルコトヲ得

此場合ニ於テハ日本銀行本支店代理店タル銀行全部ノ金櫃帳簿ヲ併セテ検査スルコトアルヘシ

第十一條 日本銀行ハ中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ニ付政府ニ對シ一切ノ責任ヲ有ス

第十二條 金庫ニ於テ備フヘキ帳簿ノ種類其規程出納ノ順序及金庫ノ検査規程ハ大藏大官ノ出ムル所ニ依ル

第十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○金庫検査規程 二十二年十二月十七日

金庫検査規程左ノ通り相定ム

金庫検査規程

第一條 金庫ノ検査ハ定時及臨時ニ之レヲ施行ス

第二條 定時検査ハ毎年三月三十一日(當日ノ出納ヲ結了セ)臨時検査ハ金庫出納役及其代理人交替スルトキ若シクハ大藏大臣必要ト認ムルトキニ於テ之ヲ施行ス

第三條 検査官吏中央金庫若クハ本金庫へ臨檢ノ節ハ出納役若クハ其代理人ヨリ其金庫現金出納原簿ノ計算表及現金殘高書ヲ徴シ之ヲ該原簿ノ各科目及各補助簿ノ員額ニ對照シ又現金科目ノ員額ト現金種類別簿ト其金櫃ニ保管スル所ノ現在金ト對照スヘシ

支金庫へ臨檢ノ節ハ其出納役代理人ヨリ各帳簿ノ出納金額及現金殘高書ヲ徴シ之ヲ各帳簿ニ對照シ殘高書ノ金額ト現金受拂簿ノ殘金額ト金櫃ニ保管スル所ノ現在金ト對照スヘシ

検査官吏前各項ノ對照ヲ了シタルトキハ檢定書二通ヲ製シ金庫出納役若シクハ其代理人ヲシテ之レニ署名捺印セシメ其一通(即甲)ハ金庫出納役若シクハ其代理人へ交付スヘシ

第四條 検査官吏ハ金庫ノ検査ヲ了シタルトキハ検査報告書ヲ作り之レニ第三條第一項ノ現金出納原簿ノ計算表及現金殘高書同條第二項ノ支金庫各帳簿ノ出納金額及現金殘高書同條第三項ノ檢定書(即乙)ヲ



添付シ定時検査ニ係ルモノハ其年四月三日迄ニ臨時検査ニ係ルモノ  
 ハ直ニ其地ヲ發シ大藏大臣ニ送付スヘシ  
 第五條 検査官吏金庫へ臨檢ノトキハ大藏大臣ノ命令書ヲ携帶シ之ヲ  
 金庫出納役若シハ其代理人ニ示スヘシ

○地租條例 明治十七年三月  
 第七號布告

●沿革畧記 明治元年八月布告全國ノ税法姑ク舊慣ニ仍ラシメ納稅等ノ  
 手續ヲ定ム○六年七月第二百七十二號布告ヲ以テ全國ノ地  
 租ヲ改正シ舊法ヲ廢シテ地價ヲ定メ新ニ地券ヲ設ケ本價百分ノ三  
 ヲ以テ正租ト爲ス仍テ地租改正條例及施行規則ヲ頒布ス○七年五  
 月第五十三號布告ヲ以テ地租改正後五年間ハ最初定メタル地價ニ  
 據リ收稅スヘキ旨ヲ前令ニ追加ス○九年五月第六十七號布告ヲ以  
 テ隱田切開切添地ノ處分ヲ定ム○同年五月第六十八號布告ヲ以テ  
 地租改正ニ臨ミ一郡内等ノ中一部分ノミ承服セサル節地價定方ヲ  
 定ム○十年一月第一號布告ヲ以テ地租ヲ減シテ地價百分ノ貳分五

厘トナス○同年一月第八號布告ヲ以テ民有地荒地處分ヲ定ム○同  
 年二月第十八號布告ヲ以テ地租改正後拂下地潰シ地收稅區分ヲ定  
 ム○同年十月第七十號布告ヲ以テ地租改正條例ニ據リ總テ耕地ト  
 唱ヘシムト雖トモ尙ホ田畑ノ稱ヲ併用セシム○十三年五月第二十  
 五號布告ヲ以テ七年第五十三號布告ノ地租改正後五年間据置ノ地  
 價ハ尙ホ明治十八年迄据置收稅ノコトトナス○十五年七月第三十  
 四號布告ヲ以テ脱稅ノタメ土地ヲ欺隱スル者ノ罰例ヲ定ム○十七  
 年三月第七號布告ヲ以テ前ノ地租改正條例及地租改正ニ關スル條  
 規等ヲ廢シ地租條例ヲ制定ス是レ現行法ナリ

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第七號百七拾貳號布告地租改正條例及地  
 租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島一函館縣一沖繩縣一札幌縣根室縣一ハ當分從  
 前ノ通タルヘシ

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス



但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ(二十二年法律第三十號ヲ以テ但書改正)

第二條 地租ハ年ノ豊凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(二十二年法律第三十號ヲ以テ本類改正)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ

如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、禁

伐林及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三

拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第七條 地價ハ地目變換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項改正)

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス(二十二年法律第三十號ヲ以テ本



項追)

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項追加)

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但質入ノ土地ハ其質取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項改正)  
免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項改正)

前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項追加)  
十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出缺下年期ノ許可ヲ受クヘシ缺下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項追加)  
官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ缺下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵



收ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項追加)

官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項追加)

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項追加)

第十七條(二十二年法律第三十號ヲ以テ削除)

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第十九條 歛下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項改正)

海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ(二十二年法律第三十號ヲ以テ本項追加)

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復



セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ但書改正)

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(二十二年法律第三十號ヲ以テ改正)

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其

情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス  
第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○地租條例施行細則二十二年十二月二十九號大藏省令第十九號  
地租條例施行細則左ノ通定ム

地租條例施行細則

第一條 條例第三條中第二類牧場ハ牧畜用ノ土地ニシテ一區域ヲ爲ス土地トス

第二條 條例第四條中免租ノ制限左ノ如シ

公立學校地ハ校舍建設アル一構内ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ公立農學校ニ於テ實驗用ニ供スル五町步以内ノ土地ニシテ借地ニ非サルモノニ限ル

鄉村社地ハ鄉村社ノ現境内ニシテ該社有ノモノニ限ル

禁伐林ハ明治十七年太政官布達第三號ニ據リ樹木斫伐停止ノ土地

鐵道用地ハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例第八條ノ土地

第三條 條例第五條ノ丈量ヲ爲スニ方リ尺度ノ用法ハ左ノ如シ  
一間未滿ノ尺度ハ六尺ノ十分一ヲ分ト爲シ分ノ十分一ヲ厘ト爲シ丈



量ノ際端尺三寸ヨリ五尺七寸マテ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨テ五厘ニ止メ其積算上ニ於テ一步未滿ヲ切捨ツ可シ但一筆ノ土地ニシテ一步未滿ナルモノハ勾位迄ヲ用ユ  
市街宅地ノ丈量ハ厘位未滿ヲ切捨テ厘位ニ止メ其積算上ニ於テ一勾未滿ヲ切捨テ勾位ニ止ム

第四條 條例第六條ノ丈量ハ所有主之ヲ爲シ地方廳其當否ヲ検査ス但本條ノ場合ニ於テ一筆ノ土地ヲ分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併スルトキハ其殘地若クハ全部ヲ丈量シ其二類地ニ係ルモノハ適宜之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 地盤ヲ丈量スルニハ三斜法ヲ用ユ但山林原野等ハ其地形ニ因リ適宜ノ方法ヲ以テ丈量スルコトヲ得

第六條 田畑ハ畦畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ丈量ス

第七條 田畑ノ畦畔ニシテ其所有主自由ニ變更ス可キモノハ之ヲ本地ニ量入シ其常ニ變更セサルモノハ之ヲ除却シ其步數ヲ外書トス

畑宅地ノ一筆地ノミニ通スル道路及一筆内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總テ本地ニ量入ス

崖高ノ地其崖脚中ノ歛入ニ必要ナル土地ハ之ヲ本地ニ量入シ其崖脚ニシテ相當ノ收利アルモノハ之ヲ本地ニ量入シ若クハ別ニ一筆地トス

田畑宅地内ニ別地目ノ瑣少ナルモノ孕在スルトキハ之ヲ本地ニ量入シ内書トス

第八條 地價ヲ定メ又ハ修正ス可キ土地ハ所有主ニ於テ近傍類地ト其地力ヲ比較シ又實地ノ情況ニ依リ相當ノ地位等級ヲ調ヘ其願屆書ニ記入スルモノトス

前項ノ場合ニ在テ所有主多數ナルトキハ其所有主中ヨリ二名以上ノ總代人ヲ撰ミ調理セシムルコトヲ得

前項ノ地價ハ地方廳ニ於テ検査ノ上之ヲ定ム

第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ府縣知事ニ於テ豫メ管内ヲ五區域ト爲シ毎年其一區域ヲ検査シ五箇年ヲ以テ全管ヲ檢了ス可シ但地價ハ検査ノ當年ニ於テ修正ス

第十條 條例第十三條第一項末段ノ土地ハ工事ニ著手セシ一筆地限リ其月ヨリ免租ス

第十一條 條例第十六條第二項ノ土地ハ同條第一項屆書ニ開墾著手ノ年月ヲ記載ス可シ

第十二條 條例第十六條第三項第四項第五項第六項及第二十條年期ノ長短ハ其事業ノ難易被害ノ深淺ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 條例第十八條第二十一條第二十三條第二十四條年期ノ長短ハ實地ノ狀況ニ因リ府縣知事之ヲ定ム



第十四條 條例第二十五條第二十六條第二十七條ノ追徴租額ハ犯罪發覺ノ日即チ其月分ヨリ計算ス

第十五條 條例中地方廳へ差出ス可キ願届書式ハ府縣知事之ヲ定ム

○地租條例及同條例施行細則取扱方二十二年十二月大藏省訓令第七十六號地租條例及地租條例施行細則取扱方左ノ通心得可シ

第一條 條例第三條ノ牧場ニシテ從來敷地目ニ分割取調へタルモノハ訂正ノ手續ヲ爲サシム可シ但搾乳營業ノ爲メ獸類ヲ豢養スル場所ハ此限ニ在ラス

第二條 條例第十三條ノ禁伐林ニシテ既ニ其命令アルモノハ條例施行ノ月ヨリ其地租ヲ免除ス可シ

第三條 施行細則第四條ノ檢査ヲ爲スニ方リ官ノ地圖ト實地トヲ照査シ其齟齬ナキヲ視認メタル上着手ス可シ但丈量檢査ニ要スル器械ハ收稅官吏携帶ス可シ

第四條 條例第十條第二項ノ土地ハ其届書ヲ檢査區域毎ニ編綴シ置キ其地價修正シタルトキ市町村限リ變換ノ年度ヲ區分シ六箇年目ヨリ遞次賦租ス可キ地目變換地臺帳ヲ調製シ置ク可シ

第五條 條例第十條第三項ノ變換及條例第十六條第二項ノ開墾届出アル片ハ市町村限各其臺帳ヲ調製シ地價修正ノ年限ヲ記入シ置ク可シ

第六條 條例第十六條第三項十五年以上ノ年期及第六項第十八條第二項第十條第二項ノ土地ニ對シ年期ヲ附與ス可キモノト視認ムルトキハ其狀況ヲ具シ當省へ稟議ス可シ

第七條 地盤ヲ丈量シタルモノハ其願届書ニ丈量野取圖ヲ添附セシム可シ

第八條 條例第二十四條ノ荒地ニシテ川海湖ニ歸シタル土地アルトキハ地種組換ノ手續ヲ爲ス可シ

第九條 各地目中ニ包含セル現地名稱ハ土地臺帳地目欄内本地目ノ傍ニ記入ス可シ

地租條例施行細則第二條參看本類ニ載ス

○公立農學校實驗用ノ地所租稅免除明治十六年十二月二十四號布告

公立農學校所有ニシテ實驗用ニ供スル地所ハ每一校五町步以内其地租及ヒ地方稅ヲ免ス

○北海道地租定率明治九年十二月第百六十一號布告

北海道地租定率

六百六十三



沿革畧記 明治五年六月開拓使ヨリ北海道開墾地収税額ヲ定ム○九年十二月第百六十一號布告ヲ以テ北海道ノ地租地價百分ノ一ト定ム是レ現行法ナリ

北海道地租ノ儀當分地價百分ノ一二相定候條此旨布告候事

○北海道開墾地地租地方稅免除 明治二十二年六月 法律第十八號

朕北海道開墾地地租地方稅免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタル田畑及郡村宅地ハ明治二十二年ヨリ同三十一年迄特ニ地租地方稅ヲ免除ス其現ニ開墾年期中ノモノハ滿期ノ翌年ヨリ尙ホ十箇年間地租地方稅ヲ課セス

○地券廢止地租徵收方 明治二十二年三月 法律第十三號

朕地券廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
地券ヲ廢シ地租ハ土地臺帳ニ登錄シタル地價ニ依リ其記名者ヨリ之ヲ徵收ス

○土地臺帳規則 明治二十二年三月 勅令第三十九號

朕土地臺帳規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地臺帳規則

第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス

第二條 市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及ヒ質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土



地臺帳所管廳ニ通知スヘシ

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金貳錢ノ割合ヲ以テ手

數料ヲ納ムヘシ

第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本

ト見做スコトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所

ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

○土地臺帳規則施行細則二十二年四月  
大藏省令第六號

勅令第三十九號土地臺帳規則施行細則左ノ通相定ム

土地臺帳規則施行細則

第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價地

租所有者及質取主ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ

第二條 土地臺帳記載ノ所有者質取主ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキ

ハ其時々之ヲ届出ヘシ

第三條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セントスルモノハ其請求書ニ手數料ヲ

添ヘ市ハ府縣廳町村ハ島廳郡役所ニ申出ヘシ

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左ノ離形ノ如ク記載シ之

ヲ下付スヘシ

(土地臺帳謄本離形略之)

○土地臺帳規則第三條ノ通知期限二十二年五月  
司法省令第三號

本年三月勅令第三十九號第三條ノ通知ハ登記ヲ爲シタル日ヨリ十日内

ニ之ヲ爲スヘシ

但地租毎納期終盡ノ前十日以内ハ其都度通知ヲ爲スヘシ

○土地臺帳謄本手數料收納方二十二年六月  
大藏省訓令第四十號

土地臺帳謄本手數料收納方ハ本年七月一日以降歲入歳出納規則第十

六條但書ニ據リ府縣收稅部出張所ニ於テ取扱ハシムヘシ

○買上地拂下地等收稅除稅區分明治十年二月  
第十八號布告

買上地拂下地等收稅除稅區分



地租改正後買上地拂下地潰地等收稅除稅區分左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入

スヘシ

第二條 官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收

入スヘシ

第三條 民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷其他潰シ地トナス時

ハ工事着手ノ月ヨリ除稅スヘシ一日着手スルモ若シ工事ヲ中止シテ六ヶ

月ニ及フモノハ工事ヲ施シタル部分ヲ除キ其中止間ハ除稅ノ限ニアラ

ス(十五年第三十五號)

布告ヲ以テ改正)

但七ヶ月以上ニ渉ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除稅ノ區域ヲ

定ムルモノトス

十七年第七號  
布告地租條例  
第四條第十三  
條參看本類ニ  
載ス

○地租徵收期限 明治十四年二月 第拾四號布告

沿革略記

明治元年八月稅法ハ當分舊慣ニ仍リ各府縣諸藩ノ租稅金米

ノ納付方ヲ示ス○四年四月社寺領上地ノ收納皆濟期月等ヲ

定ム○四年七月廢藩置縣ニヨリ租稅徵收ハ姑ク舊慣ニ依ラシム○

五年八月第二百廿二號布告ヲ以テ貢米石代金上納期月ヲ定ム○六

年十二月大藏省第百八十七號達ヲ以テ改曆ニ由リ地租收納期月ヲ

改ム○九年一月第三號布告ヲ以テ都テ前令ヲ廢シ地租徵收期限ヲ

定ム○十年七月第五十三號布告ヲ以テ徵收期限ヲ區分シ畑方三期

田方三期合テ六期ト改定ス○十四年二月第十四號布告ヲ以テ前令

ヲ改メ四期ニ區分シ畑方田方各二期トナシ十八年六月第十五號布

告ヲ以テ田方ヲ四期トナス是レ現行法ナリ

明治十年七月第五拾三號布告地租徵收期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ通改定  
候條此旨布告候事

但市街宅地地租ノ儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ其五分宛ヲ收納スヘシ(十  
年第二十四號布告)  
ヲ以テ但書改正)



地租徴收期限

畑方及宅地山林原野牧場

一期 同 該年七月一日ヨリ  
八月三十一日限

五分

二期 同 九月一日ヨリ  
十月三十一日限

同

五分

三期 同 十一月一日ヨリ  
十二月十五日限

田方(十八年第十五號布告)  
ヲ以テ田方納期改正)

二分五厘

四期 同 十二月十六日ヨリ  
翌年一月二十五日限

同

二分五厘

五期 同 一月二十六日ヨリ  
三月三十一日限

同

二分五厘

六期 同 四月一日ヨリ  
四月二十日限

同

二分五厘

○北海道地租納期(二十二年十月十二號)  
北海道地租納期左ノ通改定ス  
北海道地租納期

第一期 同 該年七月三十一日ヨリ  
八月三十一日限

宅地及雜地 五分

第二期 同 該年十一月三十日ヨリ  
十二月三十一日限

田畑鑛泉地池沼及山林原野 五分

第三期 同 翌年一月十日ヨリ  
二月末日限

宅地及雜地 五分

第四期 同 翌年四月三十一日ヨリ  
五月三十一日限

田畑鑛泉地池沼及山林原野 五分

○所得稅法 明治二十年三月  
勅令第五號

朕所得稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法



所得稅法

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ムヘシ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戸主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應ジ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及ヒ雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ但所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費、傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

| 等級  | 所得金       | 稅率    |
|-----|-----------|-------|
| 第一等 | 所得金高二萬圓以上 | 百分ノ三  |
| 第二等 | 所得金高貳萬圓以上 | 百分ノ二半 |
| 第三等 | 所得金高壹萬圓以上 | 百分ノ二  |
| 第四等 | 所得金高千圓以上  | 百分ノ一半 |



第五等 所得金高三百圓以上 百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調査委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ

調査委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第八條 調査委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ選舉人被選人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三

款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互撰セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉スヘシ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ届書ニ據リ所得金高下調書ヲ製シ其届書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届



出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半数出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證憑トナルヘキモノヲ添ヘ

府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス



第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逋税シタル者ハ其逋税金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徴シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此税法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此税法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給、手當金、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

附則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限り七月三十一日マテニ差出スヘシ

○ 所得税法施行細則 二十年五月大藏省令第八號  
所得税法施行細則左ノ通相定ム

所得税法施行細則

第一條 戶主ニ所得ナクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納税スヘキモノトス

第二條 税法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス

第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ

第四條 税法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納税管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此税法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

一 此税法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者  
一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此税法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納税者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地ノ郡區



長ニ届出ヲ爲スト同時ニ第二號書式ニ依リ其所得ヲ収入スル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付スヘシ但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ附スヘシ

第八條 納稅者他ノ郡區役所轄内ニ轉居セントスルキ及ヒ轉居シタルキハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受タルトキハ直ニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スヘシ

第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノノ所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一箇人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ稅法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ

第十二條 調査委員會及ヒ調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思料スル事故アルモ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スヘシ

第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年八月十日マテニ

之ヲ達スヘシ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ劃シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定スヘシ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半數出席セス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則(二十年大藏省令第十號ヲ以テ本則改正)

本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十二月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ

(書式略之)

○所得稅納稅者届出書面ノ誤謬訂正申出ノ時取扱方(二十一年七月大藏省訓令第三十五號)所得稅納稅者届出タル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出ツルトキ



ハ郡區長之ヲ審査シ其事實明確ト認ムル者ニ限リ左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱ヘシ

第一項 調査委員會開會以前ニ申出ツル者ハ郡區長ニ於テ之ヲ訂正セシムヘシ

第二項 届出ノ重複ニ涉レル者ハ調査委員會決議後ト雖モ郡區長ニ於テ之ヲ訂正スルコトヲ得

第三項 第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議後ニ係ル者ハ所得税法第十八條及第二十條ニ據リ處分スヘシ

○市町村制施行ノ所得税 明治二十二年四月 法律第十四號

朕市制町村制施行地ノ所得税ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
市制町村制施行ノ地ニ在テハ所得税法第六條ノ届書ハ町村ニ於テハ町村長ヲ經テ郡長ニ市ニ於テハ市長ヲ經テ府縣知事ニ之ヲ差出シ第七條第八條ノ調査委員ハ郡役所管轄内及市ニ東京市京都市大阪市ハ區ニ置キ其區域内ニ於テ之ヲ選舉シ第九條ノ調査委員ノ選舉人被選舉人ノ現住ハ調査委員會設置區域内トシ第十條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ市ニ

東京市京都市大阪市ハ區ニ郡長ハ町村ニ若干名ノ選舉人ヲ定メ第十七條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行ヒ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ第二十條ニ依リ處分スヘシ又第十三條第十四條第十五條第二十條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行フヘシ但第十五條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ部下ノ官吏ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

○市町村制施行地ノ所得税并諸税ニ關スル心得方 二十二年五月 大藏省令第七號

市制施行ノ地ニ於テハ所得税法施行ニ關シ府縣知事大藏大臣ノ認可ヲ受ケ若干名ノ臨時取調掛ヲ置キ所得税調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得  
市制施行ノ地ニ於テハ諸税ニ關スル當省令達告示中郡區長又ハ郡區役所トアルトキハ府縣知事又ハ府縣廳郡區及郡區役所所轄トアルハ市東京市京都市大阪市ハ區戸長又ハ戸長役場トアルハ市長又ハ市役所ト心得ヘシ  
町村制施行ノ地ニ於テハ諸税ニ關スル當省令達告示中戸長又ハ戸長役場トアルハ町村長又ハ町村役場ト心得ヘシ



市制町村制施行ノ地ニ於テハ諸車ノ檢印ヲ請ハント欲スルトキハ市ニ於テハ府縣知事ニ町村ニ於テハ郡長ニ申出ヘシ

○酒造稅則 明治十三年九月 第四十號 布告

沿革略記

明治元年五月古來ノ酒造鑑札ヲ改メ造石數ニヨリ上納金ヲ定メ并増造減造ノ方法ヲ定ム○同年九月百石未滿ノ酒造願ニヨリ百石迄ノ増造ヲ許シ及千石以上ノ株高分株ノ事ヲ許ス○二年十二月民政部省ヨリ酒造株濁酒造株醬油造株鑑札冥加金并年々冥加金ノ額ヲ定ム○四年欠清濁酒銘酒類并醬油釀造取締方稅則ヲ制定シ從前ノ株鑑札ヲ廢止シ更ニ免許鑑札ニ換フ○八年二月第廿六號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ酒類稅則ヲ制定ス○十三年九月第四十號布告ヲ以テ前ノ酒類稅則ヲ廢止シ酒造稅則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日

リ廢止候條此旨布告候事

(別冊)

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場

一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ納稅保證ノ爲管廳ニ於テ相當ト認ムル所ノ保證物ヲ差出スカ若ハ資産ヲ有スル保證人ヲ立ツルニアラサレハ前項ノ免許ヲ與ヘサルヘシ(二十三年法律第四十九號ヲ以テ本項并各事項共追加)

一 第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

二 酒類造石稅ノ滯納處分ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三 所有不動産ノ價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル者



保證物ノ種類及保證人ニ要スル條件ハ大藏大臣之ヲ定ム(二十三年法律第四十九號ヲ以テ本項追加)

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

- 一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ
- 二類 蒸溜酒 燒酎酒精再溜酒精其他(十五年第十七號布告ヲ以テ)酒精云々ノ六字ヲ加フ
- 三類 再製酒 蒸溜シタルモノヲ云フ又ハ之ヲ元トシテ製造シタル者ヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ(十五年第六十一號布告ヲ以テ稅額ノ項共改正)

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付 金五圓

三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス(十五年一號布告ヲ以テ本項造石高各項共追加)

清酒 百石

濁酒 拾石

一類 清酒濁酒ヲ除ク 二類 三類 五石

新ニ酒造營業ヲサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項追加)

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ(十五年第十七號布告ヲ以テ刪除シ)

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ



請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ四期ニ納ムヘシ(二十三年法律第四十九號ヲ以テ各項共改正)

第一期 四月十五日限

十月一日ヨリ一月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 八月十五日限

二月一日ヨリ五月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 十一月十五日限

六月一日ヨリ九月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ全數竝ニ第一期第二期ニ係ル殘納額ノ半數

第四期 一月十五日限

前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳へ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納税スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ但書共追加)

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場へ其酒類ヲ移ス時ハ管廳へ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 營業免許後不動産ヲ賣渡讓渡及抵當トシ其現在スル價額造石税四分ノ一ニ滿タサル場合ニ於テハ第一條第二項ニ依リ更ニ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立テシムヘシ(二十三年法律第四十九號ヲ以テ本項改正)

前項ノ保證物ヲ差出サス若ハ保證人ヲ立サルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラス検査済酒類ニ係ル造石税ヲ納メシムヘシ(二十三年法律第四十九號ヲ以テ本項追加)



第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳  
ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者  
モ其造石税ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類  
ノ酒ヲ二類ニ二類ヲ  
三類ニ變  
製スル類スル時ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係  
ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ  
手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 検査済酒類納税以前ニ於テ腐敗シ若ハ天災其他避クヘカラサル  
事故ニ依リ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出テ検査ヲ受ケ其造石税  
ノ免除ヲ請フコトヲ得(二十三年法律第四  
十九號ヲ以テ改正)

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納  
ムヘシ(二十三年法律第四  
十九號ヲ以テ改正)

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造  
石税ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕  
込タル酒もト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳ヘ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借  
ハ其時々管廳ヘ届出ツ可シ(十六年第十六號  
布告ヲ以テ改正)

造酒着手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造  
場外ヘ移スコトヲ許サス(十六年第十六號布  
告ヲ以テ本項追加)  
(十六年第十六號布告ヲ以テ本項追加)  
(二十三年第四十九號ヲ以テ削除ス)

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及酒もトヲ販賣スルヲ許サス



但事故アリテ酒もどノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニ在ラス(十五年第十七號布告ヲ以テ但書追加)

第二十二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

検査既済ノ酒類へ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項追加)

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒榨リ器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳へ届出ヘシ但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ没收シ免許税額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ



者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ本條改正但書追加)

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

第三十三條 檢査未濟ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加十六年第二十六號布告ヲ以テ第十四條ノ下又ハ云云ノ六字ヲ刪ル)

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其

器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス(十六年第六號布告ヲ以テ本項改正)

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ但書共追加)

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

酒造稅則附則(十九年勅令第六十號ヲ以テ改正)

第一條 自家用料ノ酒類飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ製造セント欲スル者及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ



ハ其旨管廳へ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一 酒類受<sub>卸</sub>賣營業者

一 飲食店又ハ旅籠屋營業者

一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石<sub>二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合</sub>

算ヲ超ユルヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委

託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上

三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタ

ル者ハ其代價ヲ追徴ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓

以上二拾圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者

ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡

讓渡タル者ニ同シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第二十七條及ヒ第二十八條ヲ適用ス

○酢造營業者酢元ニ供スル酒類ハ酒造稅則ニ據ラシム <sub>明治十六年十月</sub>

號布

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免



許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ  
 第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ検査未濟ノ酒類ヲ以テ  
 酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現  
 在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徴ス  
 第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者  
 ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○酒造醬麴及賣藥印紙煙草稅則ニ關シ犯罪アルキ租稅官吏處分方明治十六年十二月第四十三號布告

酒造稅則醬麴營業稅則賣藥印紙稅則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯  
 則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調  
 ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ

○酒造稅則施行細則二十二年十月十四號大藏省令第十四號  
 本年九月法律第二十四號酒造稅則施行細則左ノ通定ム

酒造稅則施行細則

- 第一條 酒造營業ノ免許ヲ得ントスル者ハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ願出ヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖トモ検査濟ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ酒造場ノ附屬トスルコトヲ得ヘシ
- 第二條 引續酒造營業ヲ爲サントスル者ハ毎年十月一日マテニ願出ヘシ
- 第三條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスル者ハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出會社ヲ設ケ營業ヲ爲サントスル者ハ頭取ノ名ヲ以テ願出ツヘシ
- 第四條 酒類ノ火入滓引ハ造石検査ノ後之ヲ爲スヘシ
- 第五條 検査濟ノ酒類並古酒買入酒等ヲ粕漉セントスルトキハ其時々届出検査ヲ受クヘシ但製成ノ上増石スルモノハ其石數ニ課稅スルモノトス
- 第六條 營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類ヲ販賣スルモノハ其旨届出検査ヲ受クヘシ
- 第七條 稅則第十六條非常ノ損害ニ罹リタル酒類アル場合ハ其實況ヲ證明シ直ニ管廳ニ届出ツヘシ
- 第八條 造石稅納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スル者ハ検査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ



附則

第九條 第二條願出ノ期限ハ本年ニ限り來ル十一月三十日迄トス

○自家用料酒類製造者心得十九年八月二十七日勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

第一項 酒造稅則附則第一條ノ屆書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出スヘシ

第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管廳ニ届出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第五項 第一項免許屆書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル

第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○北海道酒造稅率 明治二十二年九月法律第二十四號

朕北海道ノ内從來酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ之ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道ノ内明治十三年九月第四十號布告酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ本年十月一日ヨリ本則ヲ施行ス但其稅率ハ當分左ノ通定ム

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付 金貳拾圓

酒類造石稅

一類一石ニ付 金貳圓

二類一石ニ付 金三圓

三類一石ニ付 金四圓

稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム



○輸出酒類戻税規則 明治二十一年七月 勅令第五十四號

朕輸出酒類戻税規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

輸出酒類戻税規則

第一條 内國ニ於テ造石税ヲ賦課シタル酒類ヲ外國ニ輸出スルトキハ輸出港税關ノ検査ヲ受ケ置輸入港税關ヲ通過シタル證憑ヲ得テ之ヲ輸出港税關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請フコトヲ得但其證憑ヲ得タル後滿三箇年以内ニ差出サレル者ハ其効力ヲ失フヘシ

第二條 造石税ノ下戻ヲ受ケタル酒類ヲ本邦ニ輸入シタルトキハ輸入港税關ノ検査ヲ受ケ陸揚ノ際其戻税ハ之ヲ還納スヘシ

第三條 本則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 本則ハ明治二十一年九月一月ヨリ施行ス

○輸出酒類戻税規則施行細則 二十一年八月 大藏省令第八號  
本年七月勅令第五十四號輸出酒類戻税規則施行細則左ノ通相定ム

輸出酒類戻税規則施行細則

第一條 酒類ヲ外國ニ輸出セントスルモノハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數輸入地名積入船名等ヲ記載シタル書面ヲ輸出港税關ニ差出シ現品ノ検査ヲ請ヒ検査済ノ證明書ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ外國ニ輸入シタルトキハ該港ノ陸揚免狀及輸出港税關ノ證明書ニ必ス在留本邦領事ノ檢印ヲ受ケ當初輸出ノ税關ニ申出テ造石税金ノ下戻ヲ請フヘシ

第三條 外國ニ輸出シ造石税下戻ヲ受ケタル酒類ヲ更ニ輸入スル時ハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數ト當初税金ノ下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記載シタル書面ヲ輸入港税關ニ差出シ現品ノ検査ヲ受ケ造石税金ヲ還納スヘシ

第四條 造石税金下戻及還納ノ際石數ノ合位税金ノ厘位ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ヘシ



○沖繩縣酒類出港稅則 明治二十一年三月 勅令第十二號

朕沖繩縣酒類出港稅則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣酒類出港稅則

- 第一條 沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類壹石ニ付金三圓ヲ賦課ス
- 第二條 出港稅ヲ徵收スルタメ那霸港ニ船改所ヲ設置ス
- 第三條 荷主ハ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキ出港稅ヲ船改所ニ納メ船積免狀並領收證ヲ受ケ船積スヘシ
- 第四條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船改所ニ届出ヘシ
- 那霸港外ノ地方ヨリ直ニ出港スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ

第五條 沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ

但其官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第六條 出港稅ヲ納メス酒類ヲ他府縣へ輸出セントシテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出港稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第七條 第四條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 主任官吏ノ検査ヲ拒ム者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 此稅則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十條 前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑托ヲ受タル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

第十一條 此稅則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス



○沖繩縣酒類出港稅則施行細則二十一年七月大號省令第七號  
本年三月勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則施行細則左ノ通相定ム

沖繩縣酒類出港稅則施行細則

第一條 酒類ヲ他府縣へ輸出スル者ハ少ナクトモ出港二十四時以前ニ

左ノ項目ヲ記載シタル書面ニ税金相添へ那覇船政所へ申出其酒類ノ  
検査ヲ請ヒ船積免狀及税金領收證ヲ受クヘシ

- 一 酒類ノ種目及石數
- 一 出港稅額
- 一 容器ノ種類及箇數
- 一 荷主ノ族籍住所姓名
- 一 船名及船長姓名
- 一 出港地名

第二條 船政所ハ酒類ヲ検査スルニ當リ前條ノ書面ニ照シ石數不相當  
ト認ムルトキハ每容器ヲ開キ實量スルコトアルヘシ

第三條 第一條ノ場合ニ於テ税金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ樹量  
ヲ合計シ合位ニ金員ハ厘位ニ止メ以下切捨ルモノトス

第四條 主任官船舶ノ検査ヲ爲シ犯罪ヲ發見シ若クハ犯罪アリト認知  
シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコト

アルヘシ  
第五條 出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ貳圓以上貳  
拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○朝鮮國製造日本酒類輸入海關稅明治十九年七月勅令第六十一號

朕朝鮮國ニ於テ製造シテ我國ニ輸入スル日本酒ニ海關稅ヲ徵收スルノ件ヲ  
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朝鮮國ニ於テ製造シテ日本國ニ輸入スル日本酒類ニハ當分ノ内左ノ割合ヲ  
以テ海關稅ヲ徵收ス

- 釀造酒一石ニ付 金四圓
- 蒸溜酒一石ニ付 金五圓
- 再製酒一石ニ付 金六圓



○ 醬麴營業稅則 明治十三年九月 第四拾壹號布告

沿革略記

明治六年四月大藏省第六十七號達ヲ以テ醬麴營業者ニ免許  
鑑札ヲ付與シ醬麴稅ヲ徵ス○八年二月第貳拾六號酒稅規則  
改正布告ノ但書ヲ以テ醬麴稅ヲ廢ス○十三年九月第四拾壹號布告  
ヲ以テ再ヒ醬麴營業稅則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

醬麴營業稅則別冊之通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

醬麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醬麴醸造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願  
出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醬麴營業稅

金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届  
出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿

ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ検査ヲ受クヘシ

醬麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ(十五年第六  
十二號布告

ヲ以テ本  
項追加

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ  
請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再  
渡又ハ書換ヲ請フヘシ



三十六年第四十  
三號布告  
營業規則ニ關  
シ租稅官吏處  
分方答着本類  
ニ載ス

二十四年第七十  
二號布告  
下級之第十三  
類ニ載ス

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醬麴賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號  
ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス醬麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ  
金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ル  
カ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カ  
ラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 醬麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醬麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ  
酒類醬麴除クテ製造スルヲ許サス(十五年第六拾貳號  
布告ヲ以テ追加)

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ  
犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘ

シ(十五年第六拾貳號  
布告ヲ以テ追加)

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱  
發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第  
六拾貳號  
布告ヲ以  
テ追加)

第十五條 醬麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時  
ハ總テ其營業者ヲ處罰ス(十五年第六拾貳號  
布告ヲ以テ追加)

○ 醬油稅則明治二十一年六月  
勅令第四十七號

沿革略記 明治四年七月醬油釀造鑑札渡方規則及收稅方法ヲ定ム○八  
年二月第廿六號布告ヲ以テ稅則ヲ廢ス○十八年五月第拾號  
布告ヲ以テ再ヒ醬油稅則ヲ制定ス○二十一年六月勅令第四十七號  
ヲ以テ前稅則ヲ改正ス是レ現行法ナリ



朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則

第一條 醬油溜ヲ稱ス併製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅 醬油ハ諸味一石ニ付 溜ハ製成一石ニ付 金一圓 金一圓

第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半  
年分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテノ間查定濟石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間查定濟石數ニ係ル稅額

第三期 翌年二月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間查定濟石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ查定ヲ受クヘシ

造石數查定濟ノ醬油ト查定未濟ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ查定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際查定未濟ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ查定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出検査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ查定ヲ



受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石税ヲ納ムルコトヲ得  
製造場ニ箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟  
ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出検査ヲ受クヘシ

第七條 免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ  
貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ  
届出タル後ニ非サレハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ  
得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數查渡未濟ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スル  
コトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石税ノ査定ヲ經タル醬油其造石税納期內ニ天災又ハ避クヘカ  
ラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出検査ヲ受ケ該

造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節税關ノ検査ヲ受置キ輸入港税關  
ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印  
ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下  
戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタル醬油  
ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港税關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依托ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供  
スルモノト雖モ總テ此税則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同  
居者亦同シ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス



第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル  
原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ但當該官  
吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルト  
キハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票  
ヲ携帶スヘシ

第十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上  
五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石  
稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十  
六條ヲ犯シタル者及逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上

三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油  
及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ検査ヲ受サル者及帳簿ノ記載ヲ  
怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消  
糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ  
用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造  
人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シ  
タルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム



第二十七條 此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條 此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

○醬油稅則施行細則二十一年八月號  
大藏省令第九號  
本年六月勅令第四十七號醬油稅則施行細則左ノ通相定ム

醬油稅則施行細則  
第一條 稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラヌ都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之レニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコ

トヲ得

第二條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條 免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第四條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ増減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第五條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ

第六條 新タニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第七條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ  
第八條 醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先キヲ帖簿ニ記載シ置クヘシ  
第九條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ  
第十條 前項ノ容器ハ左ニ掲クル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅檢査員派出所







應ニ申出添書ヲ受ケ二十日以内之ヲ移轉他ノ管應ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ查定濟ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢棄石數等ヲ詳記シ所管租稅檢査員派出所ニ申出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨機シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 造石數查定未濟ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第十六條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ  
醬油製造原品買入帳  
醬油麴製造帳  
醬油仕込帳  
醬油賣揚帳

第十七條 稅則及ヒ此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三ケ年間保存スヘシ

第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名名稱石數個數輸入地名積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅

關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ受クヘシ

第十九條 造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ稅關ニ申出ヘシ

第二十條 輸出醬油造石稅下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條 稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名石數箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十二條 稅則及此細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケタル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 此細則ニ關スル帖簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム



○菓子税則 明治十八年五月  
第十一號布告

菓子税則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島「函館縣」沖繩縣「札幌縣根室縣」ハ當分之  
ヲ施行セス

(別紙)

菓子税則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人

菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子卸賣人

菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子小賣人

菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料

一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料

一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料

一枚ニ付金拾錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス



第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

- 雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓
  - 雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓
  - 雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓
  - 雇人二人アル者 一箇年 金五圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ二人ノ下以下ヲ削ル)
  - 雇人一人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ本項追加)
  - 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓
- 卸賣營業稅
- 雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓
  - 雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

- 雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓
  - 雇人二人アル者 一箇年 金五圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ二人ノ下以下ヲ削ル)
  - 雇人一人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ本項追加)
  - 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓
- 小賣營業稅
- 雇人三人以上アル者 一箇年 金七圓
  - 雇人二人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ二人ノ下以下ヲ削ル)
  - 雇人一人アル者 一箇年 金貳圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ本項追加)
  - 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓
- 二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス  
露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス



第九條 營業稅ハ二箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半  
年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ  
受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半年分ハ其年一月一日後半分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ  
現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ  
但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ  
從ヒ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日 其年八月三十一日限

第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日 翌年二月二十八日限

半年分ノ賣上金高二拾圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製  
造稅ヲ免除ス

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調

其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アル  
トキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘ  
シ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限  
七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造稅額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之  
ヲ定ム(二十一年勅令第  
八號ヲ以テ改正)

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ檢  
査スルコトアルヘシ

第十六條 (二十一年勅令第  
八號ヲ以テ本條削除)

第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五  
圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既



ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴ス

第十八條 第十二條第十三條ノ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス(二十一年勅令第八號ヲ以テ本條中加除修)

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帯セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(二十一年勅令第八號ヲ以テ及ヒ云々十八字ヲ削除ス)

第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○煙草稅則明治二十一年四月勅令第二十號

沿革略記 明治八年二月第二十八號ヲ以テ明治九年一月一日ヨリ煙草ニ課稅スヘキ旨ヲ公布ス○同年十月第五十號布告ヲ以テ稅則ヲ制定ス○十五年十二月第六十三號布告ヲ以テ前稅則ヲ改正ス○二十一年四月勅令第二十號ヲ以テ前稅則ヲ改正ス是レ現行法ナリ

朕煙草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分ケテ左ノ三種トス

煙草製造人

葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者

煙草仲買人



葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スル爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ  
證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモ

ノトス

證約金 營業場一箇所毎ニ五十圓以上  
五百圓以下

煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帯シ又ハ携帯セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料 一枚ニ付金二拾錢

煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金拾五圓

煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金拾五圓



煙草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキ

ハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貨渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス



煙草耕作人ニ限り自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ルト雖モ之ヲ賣渡貨渡讓渡スコトヲ得ス

第十七條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十八條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ逋脱ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條

第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脱稅ヲ謀リ又ハ脱稅シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵



當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十三條 煙草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

附 則

第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ



第三十八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

○煙草稅則施行細則二十一年四月三日  
大藏省令第三號  
今般勅令第二十號ヲ以テ煙草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通相定ム

煙草稅則施行細則

第一條 稅則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第二條 稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人器械ノ員數及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數坪數ニ拘ハラズ證約金額ヲ増減スルコトアルヘシ證約ノ手續及ヒ證約狀ノ様式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條 煙草製造又ハ煙草仲買營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人弟子職工ノ數職工ハ其住所ニ於テ其府縣ノ租稅検査員派出所ニ届出ヘシ但異動ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ(廿一年大藏省令第十號ヲ以テ又ハ煙草仲買ノ六字ヲ加フ)

第四條 稅則第二條但書及第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ掲ケル者ハ後見人ト爲ルコトヲ得ス

一 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第六條 煙草營業者其營業場外ニ住居スルトキハ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理人タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏名ハ租稅検査員派出所ニ届出ヘシ

第七條 稅則第四條ノ仕入出賣ヲ爲スコトヲ得ル家屬雇人ハ其營業者ト同居常住ヲ爲ス者ニ限ル



第八條 煙草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

|     |    |      |
|-----|----|------|
| 赤色  | 一枚 | 八錢   |
| 朱色  | 一枚 | 六錢四厘 |
| 紫色  | 一枚 | 六錢   |
| 嬌栗色 | 一枚 | 四錢八厘 |
| 黃綠色 | 一枚 | 四錢   |
| 淡黑色 | 一枚 | 三錢二厘 |
| 濃青色 | 一枚 | 三錢   |
| 老綠色 | 一枚 | 二錢四厘 |
| 橙黃色 | 一枚 | 二錢   |
| 桔梗色 | 一枚 | 一錢八厘 |
| 淡紅色 | 一枚 | 一錢六厘 |
| 茶褐色 | 一枚 | 一錢二厘 |
| 淡青色 | 一枚 | 一錢   |
| 萌黃色 | 一枚 | 八厘   |
| 赭色  | 一枚 | 六厘   |
| 黃色  | 一枚 | 四厘   |
| 淡赭色 | 一枚 | 三厘   |
| 黑色  | 一枚 | 二厘   |

第九條 製造煙草ノ包裹每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻煙草每一包(函)ニ付

|      |
|------|
| 百匁入  |
| 八十匁入 |
| 六十匁入 |
| 五十匁入 |
| 四十匁入 |
| 三十匁入 |
| 二十匁入 |
| 十五匁入 |
| 十匁入  |
| 五匁入  |

卷煙草每一包(函)ニ付

|      |
|------|
| 二百本入 |
| 百本入  |
| 五十本入 |
| 二十本入 |
| 十本入  |
| 六本入  |

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束毎ニ各之ヲ紙袋入リ、又ハ紙包入リ、トシ其包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以



テ完全ニ之ヲ固着シテ貼用印紙ヲ破毀セサレハ煙草ヲ取り出スヲ得  
 サル様ニ密封スヘシ  
 製造煙草每箇ノ本數、定價、氏名、住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ  
 以テ鮮明ニ之ヲ其包裹ノ表面ニ記入スヘシ  
 第十一條 煙草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得  
 第十二條 製造煙草每一箇ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルトキハ二厘  
 印紙ヲ貼用スヘキモノトス  
 第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス  
 第十四條 煙草營業者ハ既ニ用ヒタル煙草印紙又ハ其包裹ヲ所持スル  
 コトヲ得ス又何人ニテモ之ヲ賣買シ若クハ讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得  
 第十五條 煙草營業者ハ商品見本トシテ每種刻煙草五匁紙卷煙草十本  
 葉卷煙草五十本ニ超ヘサル包裹ヲ切披キ之ヲ店頭ニ陳列スルコトヲ  
 得  
 第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黒  
 肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ  
 第十七條 煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖ヒ總テ煙  
 草稅則ニ從フヘシ  
 第十八條 煙草製造人、仲買人ニシテ葉煙草ヲ買入レ又ハ預リタルトキ

ハ壹俵壹カマニ又ハ壹束毎ニ其葉ノ種類、量目、及ヒ預入レタル番號、年  
 月日、預入主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ  
 第十九條 煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル  
 家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ス但葉取リ葉拵又ハ賃卷ノ  
 爲ニ煙草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス  
 第二十條 煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スル  
 トキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ  
 第二十一條 煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
 一 葉煙草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷受主ノ氏名、住所  
 一 製造煙草ノ種類、包裹ノ區別、箇數、荷受主ノ氏名、住所  
 第二十二條 煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎  
 ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシ  
 ヲ置クヘシ  
 一 印紙賣渡ノ年月日  
 一 印紙ノ種類、枚數  
 一 賣捌人ノ氏名、住所  
 第二十三條 輸出製造煙草ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類、箇數、定價、  
 印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受  
 ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦同シ



第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 送狀ヲ添付セサル煙草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ

第二十六條 代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管廳ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

- 一 代替書換ハ六十日間
- 一 其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 煙草稅則及此規則ニ掲クル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條 煙草營業者廢業ノ節ハ租稅檢査員派出所ニ届出其製造器械ニハ當該官吏ノ封印ヲ受クヘシ

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第二十八條第三十一條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業

者包裹ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及ヒ第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

○煙草稅則取扱方要領二十一年四月大藏省訓令第二十二號  
煙草稅則改正ニ就キ其取扱方要領左ノ通心得ヘシ

煙草稅則取扱方要領

第一款 吸烟ノ用ニ供スル煙草類混和製ノ諸品トモ總テ稅則ニ照シテ之ヲ取扱フヘキモノトス

第二款 左ノ事項ハ從來各府縣ニ於テ經驗セル取締規則其他ノ慣例ヲ參酌シ改正稅則ノ精神ニ基キ適當ノ取締ヲ施スヘキモノトス

- 一 葉煙草ノ取締即チ檢證封印等ノ方法ヲ施スコト
- 一 收穫ノ調査ヲ施スコト
- 一 質、抵當ニ係ル煙草ノ受授及ヒ廢業者所持ノ煙草賣捌方ニ就テ取締ヲ施スコト
- 一 煙草製造ニ關スル場所ニ取締ヲ施スコト
- 一 煙草製造器械ノ取締即烙印等ノ方法ヲ施スコト
- 一 內國產製ニ非ル煙草ノ取引賣買貸借等ニ就テ取締方法ヲ施スコト

第三款 稅則第四條仕入出賣ノ免許鑑札ニハ各其受免許人ノ屬籍氏名



年齡免許ノ番號及ヒ其年月日ヲ記載スヘシ

第四款 製造烟草ノ包裹ニ各種ノ商標彩紋裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任ス但豫メ其見本ヲ租稅檢査員派出所ニ届出置カシムヘシ

第五款 天災其他抗拒スヘカラサル事故ニ罹リ烟草營業者所持ノ烟草包裹及ヒ其貼用印紙毀損又ハ汚染セル場合ニ於テハ當該官吏其事實ヲ審明シタル上特ニ其印紙ノ交換ヲ許スヘシ但交換ノ手續ハ別ニ告示スヘシ

○烟草印紙交換手續 二十一年七月大藏省告示第八十九號  
烟草稅則改正ニ付烟草印紙交換手續左ノ通之ヲ定ム

烟草印紙交換手續

第一條 烟草營業者天災其他抗拒スヘカラサル事變ニ罹リ其所持スル製造烟草ノ包裹若クハ其包裹ニ貼用シタル印紙ヲ毀損若クハ汚染シタルトキハ其損失ニ係ル印紙ノ價格一口壹圓以上ノ者ニ限り新印紙ト交換ヲ請求スルコトヲ得

第二條 印紙交換ヲ請求セントスル烟草營業者ハ其天災其他抗拒スヘカラサル事變ニ罹リタル年月日場所實況及損失ニ係ル印紙ノ價格ヲ記載シ所在租稅檢査員派出所ニ差出シ其審明ヲ受クヘシ

第三條 租稅檢査員其事實ヲ審明シ印紙交換ヲ許可スヘキモノト認ルトキハ損失ニ係ル印紙ヲ毀却シ其烟草ニ封印ヲ施シ烟草營業者ヲシ

テ其交換ヲ要スル印紙ノ種類枚數仕譯書ヲ調製セシメ其餘白ニ審明ヲ證シ年月日官氏名ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ烟草營業者ニ下戻スヘシ

第四條 烟草營業者ハ前條印紙種類枚數仕譯書ヲ所在郡區役所ニ差出シ交換ヲ請求スヘシ

第五條 印紙交換ノ價格割合ハ左ノ如シ

- 損失ニ係ル印紙ノ價格 下付スヘキ新印紙ノ價格
- 一 貳拾圓未滿壹圓ニ付 八拾錢
- 一 貳拾圓以上壹圓ニ付 八拾五錢

第六條 郡區役所ニ於テハ第三條ノ審明書ヲ調査シ前條ノ割合ニ據リ新印紙ヲ下付スヘシ

第七條 烟草營業者新印紙ヲ請取リタルトキハ租稅檢査員派出所ニ申出第三條烟草封印ノ解除ヲ請ヒ包裹ヲ改施シ印紙ヲ貼用シ更ニ檢査ヲ受クヘシ

○烟草稅則第十一條但書ノ場合取扱方 二十三年五月大藏省訓令第八十七號  
烟草稅則第十一條但書ノ場合ニ於テ取扱方左ノ通心得ヘシ

第一項 稅則第十一條但書ニ據リテ其金額ヲ納付シタル者ハ之ニ對スル稅關ノ證明書ニ右製造烟草ノ量目包數及ヒ價格目錄ヲ添ヘテ其地租稅檢査員派出所ニ届出テ檢査ヲ受ケシムヘシ

二十二年大藏省令第七號ヲ以テ郡區役所トアルハ府縣廳ト心得ヘキ旨ヲ示ス該省令參看本類ニ載ス



第二項 前項製造煙草ノ包裹又ハ貼用印紙當初輸出ノ際税關ノ検査ヲ受ケタル時ノ形狀ヲ變更シタルモノナルトキハ右輸入主ニ於テ最寄製造人ニ委託シ之ヲ改装シテ相當印紙ヲ貼用セシムヘシ

第三項 前項改装シタル煙草ニ對スル印紙ノ下付ヲ請求スルトキハ租税検査員ノ審明ヲ經テ之ヲ下付スヘシ

○賣藥印紙稅規則 明治十五年十月  
第五十一號布告

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一定價壹錢迄

印 稅 壹 厘

三十六年第四十  
三號布告酒造  
稅則其他稅則  
ニ關スル取調  
租稅官吏取調  
處分參看本  
類ニ載ス

|                 |       |
|-----------------|-------|
| 一 同 貳錢迄         | 同 貳 厘 |
| 一 同 三錢迄         | 同 三 厘 |
| 一 同 五錢迄         | 同 五 厘 |
| 一 同 拾錢迄         | 同 壹 錢 |
| 以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ増加ス |       |

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

|     |       |
|-----|-------|
| 壹 厘 | 淡 黑 色 |
| 貳 厘 | 青 色   |
| 三 厘 | 黃 色   |
| 五 厘 | 茶 褐 色 |
| 壹 錢 | 赭 色   |
| 貳 錢 | 綠 色   |
| 三 錢 | 濃 青 色 |



四 錢  
五 錢  
拾 錢

橙 黃 色  
紫 色  
深 紅 色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

(印紙貼用雜形略之)

○賣藥印紙交換規則 大藏省令第二十三號  
賣藥印紙交換規則左ノ通相定ム

賣藥印紙交換規則

- 第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性効ヲ失シタルモノヲ廢棄センカ爲メ既貼ノ印紙不用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼印紙額一ト口拾圓以上ハ其願出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト交換スヘシ
  - 一 既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付 交換新印紙八拾錢
  - 一 貳拾圓以上壹圓ニ付 同 八拾五錢
- 第二條 賣藥ノ装置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス



第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ箇數及印紙各種枚數ノ仕譯ヲ爲シタル書面ヲ添へ其賣藥ヲ所在府縣廳ニ差出シ檢査ヲ受ヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ檢査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟ノ證ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

○無印紙ノ賣藥自用者買受讓受等ノ禁令十九年十月大藏省令第三十一號

賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ讓受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス犯ス者ハ金壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○證券印稅規則明治十七年五月十一條布告

沿革略記 明治六年二月第五十六號布告ヲ以テ諸證文印紙貼用規則ヲ制定ス○七年七月第八十一號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ證券印稅規則ヲ制定ス○八年七月第二十號布告ヲ以テ人民ヨリ各廳ニ差出ス受負并約定筋ニ涉ル書類ニ證券印紙界紙ノ用方モ本則

ニ據ラシム○十七年五月第十一號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治七年七月第八拾壹號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年七月第百貳拾號布告ハ同日ヨリ廢止ス

(別冊)

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラヌ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フユ

二省十二大藏  
七省六十六  
坐預示以テ  
小切手ノ大  
ハ自今大藏  
印局ノ紙  
稅所ニ課  
出所ニ課



トナ得

|                 |       |
|-----------------|-------|
| 一 當座預リ金引出小切手    | 印税 五厘 |
| 一 委任狀           | 同 五厘  |
| 一 金高記載ナキ約定證文    | 同 壹錢  |
| 一 遺物證文          | 同 壹錢  |
| 一 跡式讓證文         | 同 壹錢  |
| 一 讓與證文          | 同 壹錢  |
| 一 期限ヲ定メサル預リ金證文  | 同 壹錢  |
| 一 耕地小作證文        | 同 壹錢  |
| 一 雇人請合狀         | 同 壹錢  |
| 一 金高記載ナキ諸物品預リ證文 | 同 壹錢  |
| 一 金高記載ナキ諸物品借用證文 | 同 壹錢  |
| 一 地所預リ證文<br>家屋  | 同 壹錢  |

|          |               |
|----------|---------------|
| 一 諸物品切手  | 同 壹錢          |
| 一 借地證文   | 同 壹錢          |
| 一 賣買仕切書  | 同 壹錢          |
| 一 保險證文   | 同 壹錢          |
| 一 諸會社株券  | 同 壹錢          |
| 一 送金手形   | 同 壹錢          |
| 一 金 錢 通帳 | 一年以内一冊ニ付 同 壹錢 |
| 一 諸物品判取帳 | 同 貳拾錢         |
| 一 結社約定書  | 同 壹錢          |

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ功力ヲ確定スル  
 證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書  
 ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル所ノ印紙ヲ



貼用スヘシ

- 一 營業ニ關スル送狀 印税 壹錢
- 一 營業ニ關スル請取書 同 壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

- 一 金錢借用證文
- 一 地所 家屋賣買證文
- 一 金高記載アル諸物品預リ證文
- 一 金高記載アル諸物品借用證文
- 一 諸物品賣買證文

一金錢定期預リ證文

一金高記載アル諸般ノ契約證書

|               |        |
|---------------|--------|
| 金高壹圓以上貳拾圓未滿   | 印税壹錢   |
| 金高貳拾圓以上五拾圓未滿  | 同 貳錢   |
| 金高五拾圓以上百圓未滿   | 同 四錢   |
| 金高百圓以上百五拾圓未滿  | 同 六錢   |
| 金高百五拾圓以上貳百圓未滿 | 同 八錢   |
| 金高貳百圓以上三百圓未滿  | 同 拾壹錢  |
| 金高三百圓以上四百圓未滿  | 同 拾四錢  |
| 金高四百圓以上六百圓未滿  | 同 貳拾錢  |
| 金高六百圓以上八百圓未滿  | 同 貳拾六錢 |
| 金高八百圓以上千百圓未滿  | 同 三拾貳錢 |
| 金高千百圓以上千四百圓未滿 | 同 三拾八錢 |



|  |    |      |
|--|----|------|
| 金高千四百圓以上千七百圓未滿                         | 同  | 四拾四錢 |
| 金高千七百圓以上貳千圓未滿                          | 同  | 五拾錢  |
| 金高貳千圓以上貳千五百圓未滿                         | 同  | 六拾錢  |
| 金高貳千五百圓以上三千圓未滿                         | 同  | 七拾錢  |
| 金高三千圓以上三千五百圓未滿                         | 同  | 八拾錢  |
| 金高三千五百圓以上四千圓未滿                         | 同  | 九拾錢  |
| 金高四千圓以上                                | 同  | 壹圓   |
| 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ |    |      |
| 金高百圓未滿                                 | 印稅 | 四錢   |
| 金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ                     |    |      |
| 一金錢當座預リ證文                              |    |      |
| 一質物 <small>預リ書<br/>小札</small>          |    |      |

|  |    |    |
|--|----|----|
| 金高壹圓以上貳拾圓未滿                            | 印稅 | 壹錢 |
| 金高貳拾圓以上                                | 同  | 貳錢 |
| 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ |    |    |
| 金高百圓未滿                                 | 印稅 | 貳錢 |
| 金高百圓以上                                 | 同  | 四錢 |
| 一爲替手形                                  |    |    |
| 一荷爲替手形                                 |    |    |
| 一約束手形                                  |    |    |
| 金高五拾圓未滿                                | 印稅 | 壹錢 |
| 金高五拾圓以上百圓未滿                            | 同  | 貳錢 |
| 金高百圓以上貳百圓未滿                            | 同  | 四錢 |
| 金高貳百圓以上五百圓未滿                           | 同  | 八錢 |



金高五百圓以上千圓未滿  
金高千圓以上貳千圓未滿  
金高貳千圓以上

同 拾五錢  
同 貳拾五錢  
同 五拾錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラス税率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非ザレハ之ヲ賣捌

クコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ検査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿

一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人へ差出ス請取證書

一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書



一切手、手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書(二十三年法律第三十號ヲ以テ本項追加)

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ猶之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書